大正十五年十二月二十五日　東京市四谷區長　臣　松田安靜

九　牛込區

聖上崩御ノ報ニ拜接シ、牛込區ハ十二月二十五日午前八時、緊急區會ヲ開會シ、左記奉悼文ヲ決議シ、同日午前十時五十分、區長龜山忠之助、區會議長溝口信宮內省ヘ出頭シ、之ヲ捧呈ス。

奉悼文

大行天皇御登遐ノ公示ヲ拜承シ、臣民一同惶駭痛悼爲ス所ヲ知ラス、洵ニ恐懼ノ至ニ堪エス、茲ニ東京市牛込區會ノ決議ヲ具シ、謹ミテ哀悼ノ誠意ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日　東京市牛込區長從五位勳五等　臣　龜山忠之助
東京市牛込區會議長　臣　溝口信

十　小石川區

聖上崩御ノ公示ニ拜接シ、小石川區ハ同日午前十一時緊急區會ヲ開キ、左記奉悼文ヲ決議シ、卽時區長宮川宗德、區會議長田島吉兵衞區民ヲ代表シ、葉山御用邸ニ伺侯シ、天機ヲ奉伺ス。

奉悼文

大行天皇御登遐ノ公示ニ拜接シ、區民一同恐懼ノ至リニ堪ヘス、茲ニ小石川區會ノ議決ヲ具シ、謹ミテ哀悼ノ誠意ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日　東京市小石川區長　臣　宮川宗德
東京市小石川區會議長　臣　田島吉兵衞

十一　本郷區

天皇陛下、大正十五年十二月二十五日午前一時二十五分、崩御遊ハサレタルニ付キ、本區ハ同九時二十五分緊急區會ヲ開會シ、左ノ奉悼文ヲ捧呈スルコトヲ議決シ、同十一時四十分白鳥區長及村上區會議長ハ片岡庶務掛長ヲ隨ヘ、葉山御用邸ニ伺侯シ、東

鄉式部官ヲ經テ、左記奉悼文ヲ捧呈ス。

奉悼文

大行天皇御登遐ノ公示ヲ拜誦シ、洵ニ恐懼ノ至リニ堪ヘス、茲ニ本鄉區會ノ議決ヲ具シ、謹テ哀悼ノ誠意ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日

東京市本鄉區長　臣白鳥德之助
東京市本鄉區會議長　臣村上熊八

十二　下谷區

聖上崩御ノ公示ニ拜接シ、下谷區ハ十二月二十五日午前八時、緊急區會ヲ開キ、左記奉悼文ヲ議決シ、下谷區長森岡保喜、區會副議長新居與作區民ヲ代表シ、宮內省ニ伺候シ、奉悼文ヲ捧呈ス。

奉悼文

大行天皇御登遐ノ公示ヲ拜接シ、區民一同惶駭悲痛措ク所ヲ知ラス、洵ニ恐懼ノ至ニ堪ヘス、茲ニ東京市下谷區會ノ議決ヲ具シ、謹ミテ哀悼ノ誠意ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日

東京市下谷區長　臣森岡保喜
東京市下谷區會議長　臣片山久藏

十三　淺草區

陛下ノ御惱ニ就テハ、七千萬庶民擧ツテ眠食ヲ安ンセス、神佛ニ祈願シテ、御囘癒ノ一日モ速カラムコトヲ望ミ奉リシニモ拘ラス、十二月二十五日ヲ以テ、遂ニ御登遐アラセラルヽヲ拜開シ、區民ノ哀悼痛惜措ク能ハサルモノアルハ、赤子ノ衷情固ヨリ已ムヲ得サルニ出ツ、乃チ御登遐ノ公示ヲ拜スルト共ニ、同日午前八時三十分緊急區會ヲ招集シ、全會一致左ノ奉悼文ヲ議決シ、區長杉梅之治、區會議長遠藤千元ハ直ニ之ヲ携ヘ、宮內省ニ出頭執奏方ヲ依賴シタリ。

奉　悼　文

大行天皇御登遐ノ旨ヲ拜シ、區民擧ケテ惶駭悲痛措ク所ヲ知ラス、茲ニ淺草區會ノ議決ヲ具シ、謹テ哀悼ノ誠意ヲ以聞シ奉ル。

大正十五年十二月廿五日

東京市淺草區長正六位勳五等　臣　杉　梅　之　治
東京市淺草區會議長　臣　遠　藤　千　元

十四　本　所　區

聖上崩御ノ公示ニ拜接シ、本所區ハ十二月二十五日緊急區會ヲ開キ、左ノ捧悼文ヲ議決シ、區長田村瑞穗、區會議長杉野善作區民ヲ代表シ、宮內省ニ伺候シ、左記奉悼文ヲ捧呈ス。

奉　悼　文

大行天皇御登遐ノ公示ヲ拜接シ、區民惶駭痛悼措ク所ヲ知ラス、洵ニ恐懼ノ至ニ堪ヘス、茲ニ東京市本所區會ノ議決ヲ具シ、謹テ哀悼ノ誠意ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日

東京市本所區長正五位勳四等　臣　田　村　瑞　穗
東京市本所區會議長　臣　杉　野　善　作

深　川　區

聖上崩御ノ公示ニ拜接スルヤ、深川區ハ緊急區會ヲ開キ、其決議ニヨリ區長伊藤治作、區會議長津谷一治郎區民ヲ代表シテ、宮內省ニ出頭シ、奉悼文ヲ捧呈ス。

奉　悼　文

大行天皇御登遐ノ公示ヲ拜承シ、區民一同惶駭悲痛措ク處ヲ知ラス、洵ニ恐懼ノ至ニ堪ヘス、茲ニ東京市深川區會ノ決議ヲ具シ、謹テ哀悼ノ至誠ヲ上聞シ奉ル。

大正十五年十二月二十五日

東京市深川區長　臣　伊　藤　治　作
東京市深川區會議長　臣　津　谷　一　治　郎

第三節　市民天機奉伺

聖上御登遐アラセラルルヤ、市民ノ弔辭ヲ進達スル爲、東京市

ハ十二月二十五日ヨリ、市役所及區役所ニ名簿ヲ備ヘ、市役所區役所トモ、御違例中ノ　天機奉伺同樣ナル手續ヲ以テ、奉弔ヲ受付ク。勝助役ヨリ各區長ヘノ通牒左ノ如シ。

祕發第六九號

大正十五年十二月二十五日

勝助役

各區長宛

天機奉伺受付ニ關スル件通牒

先帝陛下御登遐ニ付、天機奉伺ノ執奏ヲ申出ツル向可有之候間、從來ノ例ニ準シ、之ヲ受付クルノ御用意相成度候也。

追テ奉伺者名簿ハ、黑白水引ヲ以テ綴ラレ、其度ノ他ノ手續等ハ、總テ從來ノ通ト御承知相成度申添候。

斯クノ如クニシテ、市役所及區役所ニ於テ受付ケタル弔辭ハ、之ヲ宮內省ニ捧呈ス。

十二月二十五日ヨリ一月五日マデニ受付ケタル天機奉伺者、總數三千四百七十五名ニシテ、各區別內譯ハ左ノ如シ。

內譯

市役所	二二二名
麴町區役所	二一六名
神町區役所	一三四名
日本橋區役所	三四九名
京橋區役所	一〇八名
芝區役所	四五八名
麻布區役所	一八七名
赤坂區役所	一三七名
四谷區役所	一五八名
牛込區役所	二二〇名
小石川區役所	二九七名

本郷區役所	三七一名
下谷區役所	二一五名
淺草區役所	一二二名
本所區役所	八〇名
深川區役所	二〇一名

第四章　敬　悼

第一節　市

聖上崩御ノ報ヲ拜承スルヤ、卽日市長ハ所管公衙職員ニ訓示シ、敬悼ノ意ヲ表セシムルト同時ニ、區長ニ通牒シテ市民心得方、其他教育上ノ注意ヲ發セシメ、謹愼以ツテ臣民トシテ、過誤ナキヲ期セシメタリ、概要左ノ如シ。

其一　所管公衙職員ヘノ訓示

十二月二十五日午前九時三十分、西久保市長ハ、各區長及局課長等ヲ、市參事會室ニ招集シ、敬悼ノ意ヲ表スベキ旨、左ノ通リ訓示ス。

先帝陛下今朝一時二十五分崩御遊ハサル、吾々市民ハ驚愕痛悼ノ情ニ禁ヘサル所、殊ニ輦轂ノ下ニ職ヲ奉スル者ハ、此際專ラ謹愼靜肅ヲ旨トシ、事ニ當リ深ク敬悼ノ誠意ヲ奉表スルハ勿論ナリ、諸君ニ於テモヨク部下ニ對シ、此ノ趣旨ヲ徹底セシメラレ度、大喪中臣民トシテノ心得、公吏トシテノ心得ハ、何レ其ノ筋ニ於テ決定セラルヘク、此等ニ付テハ其ノ時ニ通知ス、又本日本市ニ於テハ各種工事ヲ御遠慮シ敬意ヲ奉表セントス、各關係方面ニ其ノ手配ヲセラレ度、尙火ノ元等ニ一層注意ヲ加ヘ、萬一粗漏ナキ樣留意セラレ度シ。

同日各局課各區役所等所屬公廳ニ對シ左ノ訓令ヲ發ス。

東京市訓令乙號外

先帝崩御アラセラレ候ニ付職員各自左ノ通心得ラルヘシ。

大正十五年十二月廿五日

各局、區、課、所屬公廳
掃除監視吏員

東京市長　西久保弘道

記

一、謹慎靜粛ヲ專ラトシ深ク敬悼ノ意ヲ表セラルヘシ

一、大喪第一期中(五十日間)左ノ喪章ヲ附セラルヘシ

和服　衣服ノ左胸ニ蝶結ノ黑布ヲ附ス

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ

(皇室喪服規程其ノ他別段ノ定アルモノハ其ノ規定ニ依ル)

一、廳中火ノ元ヲ特ニ注意セラルヘシ。

其二　區長ヘノ通牒

イ　市民心得ヘ方

十二月二十五日、聖上崩御ニ付、市民心得方ニ關シ、助役ヨリ各區長ニ對シ、左ノ通牒ヲ發ス。

祕發第七一號

大正十五年十二月廿五日

各區長宛　　助役

市民心得方ニ關スル件通牒

先帝陛下崩御アラセラレ候事、恐懼措ク能ハサル處ニ有之候、就テハ市民心得方、左ノ通區内一般ニ御示達相成度候也。

記

一、謹慎靜粛ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極、業ヲ廢シ又ハ禮容ヲ失フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト

一、特ニ火ノ元ニ注意シ、粗漏ナキ樣セラルヘキコト

一、各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト(期間ニ付テハ追テ通知スヘキニ依リソレ迄掲揚ノコト)。

一、喪章ヲ附セラルヘキコト、喪章ハ皇室喪服規程其ノ他別段ノ定アルモノヲ除クノ外、大喪第一期中(五十日)左ノ通トス

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ

ロ　弔旗掲揚方

御大喪ニ付、市内各戸弔旗掲揚中ナリシモ、哀悼ノ意ヲ表スル

タメ第一期中之ヲナスコトヽシ左ノ如ク、電氣局長及各區長ニ通知ス。

祕發第三一號
昭和二年一月十七日

各區長、電氣局長宛　　助役

御大喪中弔旗掲揚ニ關スル件

御大喪ニ付、市内各戸弔旗掲揚中ノ處、右ハ第一期(二月十二日迄)掲揚ノ事ト致度候間、此ノ旨區内一般ニ御示達相成度候也。

追テ御大喪中(十二月二十四日迄)祝祭日等ニ掲揚スル國旗モ亦竿球ヲ黑布ニテ蔽ヒ、旗竿ノ上部ニ黑布ヲ付スヘキ儀ニ有之候間爲念申添候。

(注意)

電氣局長宛ノ分ニハ本文中「市内各戸」ヲ「電車及乘合自動車」ニ「　」中ヲ「御了知相成度候也」トス。

其三　教育上ノ注意

聖上御崩御アラセラルヽヤ、教育局ニ於テハ、藤井局長、坂井普通教育掛長午前五時ニ登廳シ、學校關係ノ奉悼ノ件ニ關シ協議ス、午前八時東京府學務部長ヨリ左ノ通知ヲ受ク。

寅學發第七八三號
大正十五年十二月二十五日

東京市長殿　　東京府學務部長

大喪ニ付貴部内各學校ニ於テハ、一日授業ヲ休ミ、生徒兒童ヲ集メテ奉悼ノ誠意ヲ表セシメラルヘシ

右事急ヲ要シタルヲ以テ、電話ヲ以テ各區長ニ通知ス。

卽チ各學校長ハ、區長ヨリノ通牒ニヨリ、生徒兒童ヲ集メ、陛下崩御ノ旨ヲ告ケ、哀悼式ヲ嚴肅ニ擧行シ、同時ニ學校長ヨリ、大喪

中ノ心得ヲ訓示ス。

一月十二日　教育局會議室ニ於テ、市立中等學校長會ヲ開催ス、藤井教育局長ヨリ、御大喪中ニ於ケル、生徒心得方等ニ關シ指示ス。

一月十三日　大正天皇ノ御治世ヲ追憶シ奉リ、併セテ御大喪儀ニ關スル御事ヲ知ラシメ、以テ市民哀悼ノ微意ヲ表スル爲、講演會開催スルコトヽナリ、第一回ヲ同日午後六時半ヨリ青山會館ニ於テ、左記ノ通開催シ、先帝ノ御治績ヲ偲ヒ奉ル。

第一回　青山會館　　貴族員議員　竹越與三郎
大正天皇ノ御治世
大正時代ニ制定セラレタル法制ニ就テ　法學博士　清水澄

第二回　商工奬勵館　　文學博士　本田辰次郎
大正天皇ヲ偲ヒマツリテ
御大喪儀ニ就テ　　文學博士　關根正直

第三回　本所公會堂　　文學博士　吉田熊次
御大喪ト國民ノ道德的意議
御大喪儀ニ就テ　　上野竹次郎

第四回　　文學博士　上田萬年
大正ノ御世ヲ思フ
御大喪儀ニ就テ　　文學博士　關根正直

尙、東京府學務部長ヨリ、大喪中ニ於ケル諸催ニ關スル通牒ニ基キ、左記ノ通リ各區長ニ通牒ス。

敎甲第二八號
昭和二年二月二十二日

東京市助役　勝正憲

各區長宛

大喪中ニ於ケル諸催ニ關スル件通牒

大喪中ハ一般ニ謹慎ヲ旨トスヘキヲ以テ、各學校等ニ於テハ祝賀ノ爲メニスル會合及娯樂ノ意味ヲ以テ催ス集合、其他余興ノ類ハ避ケシメラルヽ樣致度、尙卒業式紀念式等ノ如キハ嚴肅ヲ旨トシテ行ヒ、競技等ノ擧行ニ關シテハ第一期、第二期中ハ遠慮セシムヘク、第三期ニ於テハ應援等ノタメ喧騷不謹慎ニ涉ルコトナク、平素ヨリ一層眞摯ノ態度ヲ持シテ行フニ於テハ差支無之旨、其筋ヨリノ通牒ノ次第モ有之候條、貴區內各學校、幼稚園、實業補習學校、青年訓練所ヘ御示達相成度候也。

第二節　區

其一　吏員ヘノ訓示

大正天皇　崩御アラセラルヽヤ、各區長ハ市長ノ訓令ノ趣旨ヲ體シ、概略次ノ如キ訓示ヲ吏員ニナス

一　麴町區　區長

區長ハ廳中一般ニ對シ、左ノ訓示ヲ爲シタリ。

先帝陛下御登遐遊ハサレ候ニ付テハ左ノ通心得ラルヘシ。

十二月二十五日

一、謹慎靜肅ヲ專ラトシ、深ク敬悼ノ誠意ヲ表スヘシ

一、所員ハ文官ノ例ニ準シ喪章ヲ附スヘシ

一、廳中火ノ元ヲ特ニ用心スヘシ

二　神田區

昭和元年十二月二十五日、區長ハ左記事項ヲ訓示セリ。

一、謹慎靜肅ヲ旨トシ、深ク敬悼ノ意ヲ表スルコト

一、大喪第一期中喪章ヲ附スルコト

一、廳中ノ火ノ元ヲ特ニ注意スルコト

三　日本橋區

大正十五年十二月二十五日、區長ハ大體左ノ如キ訓示ヲナス。

俄カニ諒闇ニ遭ヒ萬民均シク恐惶哀悼ニ堪ヘサル所ナリ、謹ンで御大喪ニ服

スルニ當リ、此際特ニ靜肅謹愼ヲ旨トシ、一層事務ニ精勵シ、哀悼ノ至誠ヲ表シ、以テ區民ノ範タランコトヲ切望ス

四　京橋區

先帝陛下崩御アラセラレタルコト、恐懼措ク能ハサル處ナリ、此際職員各自ハ市長訓令ノ趣旨ヲ體シ、左記各項ニ注意セラルヘシ。

一、謹愼靜肅ヲ專ラトシ、深ク敬悼ノ意ヲ表セラルヘシ

一、大喪第一期中(五十日)左ノ喪章ヲ附セラルヘシ

洋服左腕ニ黑布ヲ纏フ

和服左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス

一、廳中火ノ元ヲ特ニ注意セラルヘシ

五　芝　區

諒闇中ハ一層言語動作ニ注意スルハ勿論、多人數集合スルカ如キハ、喧噪ニ陷リ易キヲ以テ、可成之レヲ避ケ、居常靜肅謹愼、以テ敬悼ノ赤誠ヲ奉表スヘク訓示セリ。

六　麻布　區

先帝ノ御登遐ハ齊シク恐懼措ク能ハサル所ニシテ、悲痛哀愁ノ極ミテアル、各員ハ一層靜肅ヲ旨トシ、哀悼ノ誠意ヲ披瀝スヘシ。

七　赤坂　區

昭和元年十二年二十五日、區長ヨリ吏員一同ニ對シ、天皇陛下崩御ニツキ、奉悼ノ意ヲ表スヘキコト、並御大喪中各自ノ心得ヘキ事項ノ訓示ヲナシ、其後府知事ノ告諭アルト共ニ、之ヲ吏員ノ回覽ニ供シ、奉悼ノ誠意ヲ失ナハシメサル樣注意シタリ。

八　四谷區

先帝御登遐遊ハサレ、國民一同驚愕措ク能ハザル所ナリ、既ニ御大漸以來諸君ハ謹慎セラルヽ所ナルモ、一層其ノ行動ニ注意セラレ、苟クモ世ノ指彈ヲ受クルガ如キコトナキ樣、且ツ本日ヨリハ服裝ニモ留意シ、喪章（洋服ニハ左宛ニ喪章、和服ニハ蝶形喪章ヲ左胸部）ハ必ス附シ、謹慎以テ哀悼ノ誠意ヲ表スルコト。

九　牛込區

大行天皇ニ於カセラレテハ、本日午前一時二十五分　崩御遊バサレ、國民トシテ最モ悲シムヘキ報ヲ拜承シ、洵ニ恐懼措ク所ヲ知ラサル次第ナリ。

大行天皇ノ御不例ニ付テハ、天人共ニ赤誠ヲ盡シ、國ヲ擧ケテ日夜御平癒ノ速カナラムコトヲ御祈願申シ上ケタノテアルカ、其ノ効モナク、遂ニ御登遐遊ハサレタコトハ、吾々國民ハ申ス迄モナク天下萬民驚愕哀悼ノ極テアル、諸員此際謹慎靜肅ヲ旨トシ、服裝其ノ他裝飾ハ目立ツ可キモノヲ避ケ、又娛樂ノ爲ニスル催ハ、之ヲ遠慮スルト共ニ、各自協力シテ事故防止ニ勗メ、以テ奉悼ノ赤誠ヲ表サルヘシ。

十　小石川區

十二月二十五日午前十時、區長ハ大要左ノ如ク訓示セリ。

天皇陛下御不例ニ亘ラセラレ、七千萬國民ハ日夜御平癒ノ速カナランコトヲ祈リ奉リシニ、本朝俄カニ神去リ給ヘリ詢ニ恐懼ノ至リニ堪ヘサルトコロナリ、此ノ大事ニ際シ、一般國民ハ喪ニ服スルハ勿論、特ニ吏員トシテハ一層謹慎質素ヲ旨トシ、事務ニ精勵シ、奉悼ノ誠意ヲ表シ奉ルヘキ旨訓示シ、且喪章ヲ付スコトヲ注意セリ。

十一　本郷區

十二月二十五日、白鳥區長ハ大要左ノ如ク、吏員一般ニ對シ訓示セリ。

一　市長ヨリ訓示ノ次第モアリ、此際謹慎靜肅ヲ專ラトシ深ク敬悼ノ意ヲ表スルコト。

二　大喪第一期中(五十日間)喪章(和服ハ衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布、洋服ハ左腕ニ黑布ヲ纏フ)ヲ附着スルコト。

三　本日ヨリ當分ノ間宿直員二名ヲ增員ス、而シテ宿直員ハ夜中廳內ヲ巡視シ特ニ火災豫防其他警戒ヲ嚴ニスルコト。

四　今明日ノ吏員ノ服務方ニ關シテハ左ノ通リ心得ルコト。

(一)　各掛長次席ハ本日退廳ノ命令アルマデ居殘リ、明日ハ日曜ナルモ出勤ノコト。

(一)　各掛員ハ本日午後及明日各半數宛出勤ノコト。

(一)　歸宅者ハ出先等ヲ明カニシ待命ノコト。

十二　下谷區

十二月二十五日、區長ハ吏員ヲ區會會議室ニ集メ、大要左ノ如キ訓示ヲナシタリ。

謹慎靜肅ヲ旨トシ、深ク敬悼ノ意ヲ表シ、事務ノ取扱ニ關シテハ特ニ心ヲ須ヒ、外來者トノ間ニ於テ、喧騷ヲ極ムル等ノコトナキ樣特ニ注意スルコト。

特ニ、廳中火ノ元ニ注意スルコト。

宿直者ハ、監督官公署ヨリ來書、電話等ニ注意シ、御大喪ニ關スルモノハ、直ニ區長ニ報告スルコト。

十三　淺草區

十二月二十五日、區長ハ大要左ノ如キ訓示ヲナス。

今回圖ラスモ　大行天皇御登遐ノ旨ヲ拜シ、我々臣民ノ恐懼哀悼措ク能ハサル所ナリ、本區ニ於テハ御登遐ノ旨ヲ拜スルト共ニ、本日午前八時三十分ヲ以テ緊急區會ヲ招集シ、全會一致ヲ以テ、奉悼上奏文ヲ議決シタルニ依リ、卽刻區會議長ト共ニ宮內省ヘ出頭シ、執奏方ヲ依托シ、今回ノ御變事ニ就テハ、區內一般謹ン

テ敬悼ヲ表スヘキハ勿論ノコトナレハ、區ノ吏員タル各位ニ在リテハ大ニ戒慎ヲ加ヘ、謹粛ニ敬悼ノ意ヲ表セサルヘカラス、尚諒闇中ハ特ニ事務ノ取扱上ニモ注意シ、萬不敬ニ亘ル樣ノコトナキヲ期スヘシ云々。

十四　本所區

十二月二十五日、區長ハ吏員一同ヲ集メ、左ノ訓示ヲ爲ス。

先帝陛下崩御ハ、國民ノ齊シク恐懼措ク能ハサル所ニシテ、職員各自ハ左記了知ノ上、苟モ吏員ノ體面ヲ汚損スルカ如キ行爲無キ樣、此際特ニ留意セラルヘシ。

記

一　謹慎靜粛ヲ專ラトシ、深ク敬悼ノ意ヲ表セラルヘシ。

一　大喪第一期間中(五十日間)左ノ喪章ヲ附セラルヘシ。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

(皇室喪服規程其他別段ノ定メアルモノハ其規程ニ依ル)

一　廳中火ノ元ヲ特ニ注意セラルヘシ。

十五　深川區

十二月二十五日、聖上崩御遊サレタルニツキ、區長ハ大要左ノ如キ訓示ヲナセリ。

一　謹慎靜粛ヲ專ラトシ、深ク敬悼ノ意ヲ表セラルヘシ。

二　大喪第一期中(五十日間)左ノ喪章ヲ附セラルヘシ。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

(皇室喪服規程其他別段ノ定アルモノハ其ノ規定ニ依ル)

三　廳中火ノ元ヲ特ニ注意セラルヘシ。

大正十五年十二月二十五日

其二　區民ヘノ注意

區長

聖上崩御ニ關シ、各區長ハ市長ヨリノ通牒ニ基キ、大喪中臣民ノ心得置クヘキ事項ヲ、各町會長、又ハ各區青年團、在郷軍人分會長ヲ通シ、告示依頼狀ヲ發スル事、次ニ例示スルカ如シ。

一　麹町區

聖上崩御ノ公示ヲ拜承シ、麹町區ハ左ノ如ク、各町會長宛依頼書ヲ發ス。

先帝陛下ノ崩御ハ、國民ノ齊シク恐懼措ク能ハサル處ニ有之候、就テハ此際市民ハ一層靜肅ヲ旨トシ、敬悼ノ意ヲ表セラルヘク、尚一般臣民ノ心得ヘキ事項、左記ノ通ニ有之候間、至急御町内各戸ニ周知方御配慮相煩度、此段特ニ御依頼候也

昭和元年十二月二十五日

各町會長宛　　東京市麹町區長

一　謹慎靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極業ヲ廢シ、又ハ禮容ヲ失フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト。

一　大正十五年十二月二十五日以後、元號ヲ昭和元年ト改メラル。

一　御大喪ニ付、本二十五日ヨリ三十日迄廢朝仰出サル。

一　廢朝中、御大喪當日ハ歌舞音曲ヲ停止セラル。

一　各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト(期間ニ付テハ追テ通知スヘキニヨリ、ソレマテ掲揚ノコト)。

一　國旗掲揚スルトキハ竿球ハ黑布ヲ以テ之ヲ蔽ヒ、且旗竿ノ上部ニ黑布ヲ附スヘシ。

一　御大喪中ノ臣民喪ハ一年トス。

一年ヲ分チテ三期トシ、第一期第二期ハ各五十日トシ、殘餘ノ日數ヲ以テ第三期トス。

一　皇室喪服規程其他別段ノ定メアルモノヲ除クノ外、大喪第一期中喪章左ノ通リ。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

一　此際火ノ元ハ各自特ニ用心シ、警察署消防署ノ承認ヲ得テ、可成協同又ハ町内組合等ヲ設ケ、警戒ニ努メ、苟モ禍誤ナキ樣、周到御注意相成度。

二　神田區

十二月二十五日、各町會長、青年分團長、帝國在鄉軍人會神田區分會長等ニ依賴シテ、大行天皇御登遐ニ付、天機奉伺執奏ノ儀申出ツル向ニ對シ、毎日自午前九時至午後四時當役所ニ於テ受付ヲ爲スヘキ旨、及市長ノ通牒ニヨル市民心得方ニ關スル通知ノ件ヲ、區内一般ニ周知セシメタリ。

昭和元年十二月二十五日付ヲ以テ、天皇陛下崩御アラセラレタルヲ以テ、不取敢毎戸弔旗ヲ掲揚シ、且ツ一層火ノ元ヲ注意セラレ度キ旨、左記事項(略)ヲ附記シ、町内居住者一般ニ周知方ヲ、青年分團長、帝國在鄉軍人會神田區分會長、町會ニ依賴セリ。

三　日本橋區

十二月二十五日、各町會長及總代ニ對シ、區民一般ニ、敬悼ノ意ヲ表シ奉ル爲メ、各戸ニ弔旗掲揚方並其ノ方法ヲ通知ス。

一　十二月二十五日、市民心得方ニ關スル本市ヨリノ通牒ニ基キ、各町會長及各町總代ニ宛、左ノ心得事項ヲ通達ス。

イ　謹愼靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極、業ヲ廢シ又ハ禮容ヲ失フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト。

ロ　特ニ火ノ元ニ注意シ、粗漏ナキ樣セラルヘキコト。

ハ　各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト(期間ニ付テハ追テ通知スヘキニ依リソレ迄掲揚ノコト)。

ニ　喪章ヲ附セラルヘキコト喪章ハ皇室喪服規程其他別段ノ定アルモノヲ除クノ外、大喪第一期中(五十日間)左ノ通トス。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

四　京橋區

聖上崩御アラセラレタルコト、恐懼措ク能ハサル處ナリ、此ノ際、各位ハ左記本市通牒ノ趣旨ヲ體シ、深ク敬悼ノ意ヲ表セラルヽ樣、注意セラレタシ。

一　謹愼靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極、業ヲ廢シ又ハ禮容ヲ失フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト。

一　特ニ火ノ元ニ注意シ、粗漏ナキ樣セラルヘキコト。

一　各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト。

一　喪章ヲ附セラルヘキコト、喪章ハ大喪第一期中五十日左ノ通リトス。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

五　芝　區

聖上崩御ノ公示ニ拜接シ、芝區ハ左ノ如キ告示ヲ爲ス。

一　二月七日御大喪儀當日諸員拜禮時刻葬場殿ヲ遙拜シ敬悼ノ意ヲ表セラレ度キコト。

二　火ノ元ニ注意シ、失火等ノ過失ナキ樣セラレ度キコト。

三　御靈轜奉送セラルヽ向ハ、謹愼靜肅ニ敬意ヲ失セサル樣セラレ度コト。

四　旅人宿、飲食店、車馬供給等ノ營業者ハ、不便ヲ與ヘ又ハ不當ノ料金ヲ貪ラサル樣セラレ度キコト。

五　御大喪儀當日（二月七日、二月八日）ハ、弔旗ヲ掲揚セラレ度キコト。

六　御道筋ニ該ル場所ハ、奉悼提燈ヲ出サレ度コト。

七　精神病者ノ監護ヲ注意スルコト。

八　公衆衞生ニ注意シ、惡疫等ノ絶無ヲ計ラレ度キコト。

九　御道筋ニ當ル場所ニ於テハ、沿道ノ破損修繕、整理清掃保持ニ努メラレ度キコト。

十　御道筋ニ當ル場所ニ於テハ、二階ノ窓戸ヲ堅ク鎖サレ度キコト。

十一　御大喪儀當日ハ、家畜類ヲ屋外ニ出サヽル樣セラレ度キコト。

十二　弔旗ノ掲揚ハ、御大喪第一期中二月十二日迄掲揚シ、以後本年十二月二十四日迄ノ間ニ於ケル、祝祭日等ニ掲揚スル國旗モ亦竿球ヲ黑布ニテ蔽ヒ、旗竿ノ上部ニ黑布ヲ付スルコト。

六　麻布區

聖上崩御ノ公示ヲ拜承シ、麻布區ハ左ノ告示ヲ爲ス。

先帝ノ崩御ハ國民ノ齊シク恐懼措ク能ハサル處ニ有之、此ノ際國民一般靜肅ヲ旨トスルハ勿論、敬悼ノ意ヲ表スル爲弔旗ヲ掲揚シ、特ニ火ノ元ニ注意セラルヘシ。

大正十五年十二月二十五日

東京市麻布區長　松崎章太郎

前記告示ノ外別途、區內町會、青年團、分會各班、町有志其他ノ團體ニ依賴シテ、旨趣ノ徹底ニ努メタリ。

七　赤坂區

大正十五年十二月十七日、各町會代表者並町總代ヲ區役所ニ召集シ、天皇陛下御不例ニ渡ラセラル、ニツキ、一般ノ心得ヘキ事項ニツキ篤ト注意ヲ與ヘ、尙年末年始ノ飾付ニ就キテハ、各自遠慮可致旨ノ打合ヲ爲シ、當日不參町會ニ對シテ、右ノ旨ヲ通牒シ置キタリ。

八　四谷區

十二月二十六日付ヲ以テ、大喪一般心得ニ關スル事項(廿五日官報號外掲載)及東京府知事官房主事通牒ノ事項、並東京市助役通牒、市民心得方ニ關スル事項ヲ、區內各町會ニ送附シ、各戸ヘ周知セシメタリ。

九　牛込區

十二月二十五日、天皇御登遐ニ付、即日區内名譽職、同待遇者、町會長、在鄕軍人分會長、同班長、青年分團長へ、左記ノ通書面ヲ以テ通知セリ。

拜啓

大行天皇

御登遐ノ公示ヲ拜承仕リ、惶駭痛悼爲ス所ヲ知ラス、洵ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ニ御座候、就テハ此際謹愼靜肅ヲ旨トシ、服裝其他裝飾ハ目立ツヘキモノヲ避ケ、又娛樂ノ爲ニスル催ハ之ヲ遠慮スルト共ニ、各自相協力シテ火災、盜難其ノ他ノ事故防止ニ勗メ、以テ奉悼ノ赤誠ヲ表シ度ト存候間、該趣旨徹底方ニ付、何分ノ御配慮相煩度、此段得貴意候

大正十五年十二月二十五日　敬具

東京市牛込區長　龜山忠之助

殿

追而弔旗掲揚及喪章佩用方ニ關シテハ、何分ノ公示可相成トハ存候得共、大體　明治天皇　崩御ノ際ニ於ケルト御同樣ノ趣仄聞致候ニ付、御參考迄ニ當時ノ規定(別紙)御送附申上候、尙本件ニ關シ公示相成候節ハ、更ニ通報可致爲念申添候。

(別　紙)

大喪ニ付一般心得(內閣)

大喪中國旗掲揚方(大正元年七月三十日閣令第一號)

同月二十五日、先帝陛下御登遐ニ付、天機奉伺執奏ノ儀ニ關シ、同日ヨリ東京市役所及各區役所ニ於テモ其ノ受付ヲ爲スヘキ旨、區內名譽職同待遇者、學校長、町會長、在鄕軍人分會長同班長、青年分團長、神職僧侶、警察署長、郵便局長宛書面ヲ以テ通知ス。

尙ホ同日大喪ニ際シ生活困窮者救濟方ニ關シ、東京市助役通牒ノ次第ニ依リ、區內各町會長ヘ、夫々移牒セリ、次テ翌二十六日一般市民心得方ニ關スル、東京市長告諭、印刷物ヲ區內各町會ニ委囑シテ配付シ、又男女青少年團員心得方ニ關スル、東京府學務部長通牒ヲ、區內青年分團長及少年團長ヘ夫々移牒シタリ。

昭和二年二月七日御大葬儀當日心得及其他ニ關シ區長ヨリ左記ノ通各關係先ヘ通知セリ。

一月十二日東京市助役通牒ニ依リ區内名譽職、同待遇者、學校長、町會長、在鄕軍人分會長、同斑長、青年分團長、神職、僧侶ヘ別紙御大喪當日施設事項ヲ移牒セリ。

十　小石川區

十二月二十五日、各町會長ニ對シ、左記ノ如キ注意書ヲ發シ、注意セリ。

先帝陛下御崩御ノ公示ニ拜接候コトハ、國民ノ齊シク恐懼措ク能ハサル處ニ御座候、就テハ一般市民ノ敬悼方等ニ關シテハ、其筋ト打合中ニ有之、逐次御通知申上ヘク候條御了知置被下度、尙斯ル御大事ノ時ニ際シテハ、申迄モ無之各戸特ニ火ノ元ニ留意シ、過チ等無之樣、一般ニ御周知方何分ノ御配慮相煩度、爲念此段得貴意候。

昭和元年十二月二十五日

小石川區長　宮川宗德

町會長殿

十二月二十五日、市民心得方ニ關シ、市長ヨリ通牒アリタルニ付、各町會長、名譽職ニ左記ノ通リ發送シ、一般區民ニ周知方ヲ依賴セリ。

庶發第一七七四號

昭和元年十二月二十五日

東京市小石川區長　宮川宗德

町會長殿

市民心得方ノ件

標記ノ件ニ關シ、本市役所ヨリ左記ノ通リ通達有之候ニ付、一般ニ御周知方可然御配慮相煩度、此段得貴意候。

追テ本市ヨリ別紙印刷送付、越ニ付、同封致候條、適當ノ個所ニ御掲示方御依賴申上候。

記

一、謹愼靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極業ヲ廢シ又ハ禮容ヲ失フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト。

一、特ニ火ノ元ニ注意シ、粗漏ナキ樣セラルヘキコト。

一、各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト(期間ニ付テハ追テ通知スヘキニ依リソレ迄掲揚ノコト)。

一、喪章ヲ附セラルヘキコト、喪章ハ皇室喪服規程其ノ他別段ノ定アルモノヲ除ク、外大喪第一期中(五十日間左ノ通トス。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

十二月二十六日、東京府知事官房主事ヨリ通牒(十二月二十五日官報號外掲載)ニ基キ、各町會長、名譽職、各學校長ニ左記ノ通リ、送附區民一般ニ周知方ヲ依賴セリ。

庶發第一七九五號

昭和元年十二月二十五日

小石川區長　宮川宗德

町會長殿

名譽職殿

學校長殿

十一　本郷區

先帝ノ崩御ハ、國民ノ齊シク恐懼措ク能ハサル處、本郷區ハ區民ニ對シ、大要左ノ如キ注意ヲ爲ス。

一、弔旗ヲ掲揚スルコト(掲揚方及期間ヲ示ス)

二、諒闇第一期中喪章ヲ附著スルコト。

三、當役所ニテ天機奉伺ノ受付ヲ爲スコト。

四、廢朝期間中生活困窮者救濟ニ關スル施設ノ通知ヲ爲シタルコト。

五、年末年始休暇中　天機奉伺ニ關スル受付時刻ニ付キ通知ヲ爲シタルコト。

六、天機奉伺ノ受付ヲ本年一月十三日限リ廢止スル旨ノ通知ヲ爲シタルコト。

七、大喪期間中(本年十二月二十四日マテ)祝祭日等ニ掲揚スル國旗ハ弔旗トスル

コト。

八、本年一月十日開催ノ區長會ニ於ケル協議事項ニ基キ、注意事項ヲ通知シタルコト。

九、其他隨時市役所及警視廳ヨリ發セラレタル告諭及注意事項ヲ配付シタルコト。

十二　下谷區

聖上崩御ニ付、下谷區ハ左記ノ注意ヲ各町會ヲ經テ、區民ニ通達シタリ。

昭和二年一月二十九日

下谷區長　森岡保善

各町會長宛

御大喪儀ニ關スル市民心得書配付方ノ件。

御大喪儀ニ關スル市民心得書(東京市諭告第一號)別包御送付候間各戸ニ御配付方御取計相煩度候也

天機奉伺受付事務開始ノ件及火ノ元警戒等ニ付町會ヲ通シテ一般ニ通知ス。

十三　淺草區

御登遐ノ旨ヲ拜シ、淺草區ハ取敢ヘス左ノ告示及通告ヲ發セリ。

(告示)

天皇陛下本日午前一時二十五分崩御遊ハサル

右謹告ス

大正十五年十二月二十五日

東京市淺草區長

(町會長ヘ通知)

大正十五年十二月二十五日

町會長宛

淺草區長

大行天皇崩御遊ハサレ候旨ヲ拜シ、國民齊シク恐懼ニ堪ヘサル儀ニ有之候、茲ニ市民擧テ、必ス弔旗ヲ掲揚シ、以テ敬悼ノ誠ヲ表シ奉リ度候、尙此際、火氣ハ一層注意ヲ拂ヒ、過失等萬無之ヲ期シ度候間、此旨御町內各戸ヘ無洩御傳達相煩度、此段謹告候也。

追テ本日午前八時三十分、緊急區會ヲ開會シ、三十萬區民ヲ代表シテ、恭シク奉悼文ヲ議決シ、直ニ闕下ニ捧呈可致筈ニ候條併テ御通知申上候

（區名擧職ヘノ通知）

大行天皇崩御ノ旨ヲ拜シ、各町會長宛不取敢別紙ノ通リ通知致候間、此段御通知候也。

別紙ハ前文町會長通知ノ通リニ付之ヲ略ス。

尙淺草區ハ、小學校長ヘ指示シテ生徒ヲ通シ、左ノ如ク注意ス（指示要項）。

一　大行天皇ノ御登遐ニ就テハ、臣民一般ノ謹愼敬悼ヲ表スル所ナルヲ以テ、小學校ニ於テモ、總テ其趣旨ニ悖ラサルヨウ、周到ノ注意ヲ拂ハレタキコト。

二　諸集合等假令ハ修學旅行、諸講習會、校友會又ハ記念日ニ集會スルカ如キ會合ヲ催スコトハ、絕對ニ禁止セラレタキコト。

三　服裝ハ質素ヲ旨トシ、華美ニ亘ラサル樣注意セラレタキコト。

四　歌舞音曲ヲ停止シ、唱歌ノ如キモ當分之ヲ發唱セサルコト。

五　弔旗ハ一般家庭ニ於テ必ス之ヲ揭揚スヘキ筈ナルモ、更ニ生徒ヲ通シテ父兄ヘ其旨ヲ通知セラレタキコト。

六　一般謹愼ノ際ナレハ、失火ノ警戒ヲ嚴重ニシ、火ノ元用心ヲ要スルヲ以テ、各自生徒ヲシテ其趣旨ヲ體セシムルト共ニ、父兄ヘモ此事ヲ知ラシムル樣注意セラレタキコト。

十四　本所區

本所區ハ、十二月二十五日及一月十三日ヲ以テ、左ノ注意書ヲ發ス。

先帝陛下崩御アラセラレ候事、恐懼措ク能ハサル處ニ有之候、就テハ區民心得方左ノ通リ、貴町內一般ニ御示達相成度、此段申進候也。

大正十五年十二月二十五日

區内各町會長宛

東京市本所區長　田村瑞穂

記

一謹慎靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極、業ヲ廢シ又ハ禮容ヲ夫フカ如キコトナキ樣セラルヘキコト。

一特ニ火ノ元ニ注意シ、粗漏ナキ樣セラルヘキコト。

一各戸ニ弔旗ヲ掲揚セラルヘキコト(期間ニ付テハ追テ通知スヘキニ依リ夫迄掲揚ノコト)。

一喪章ヲ附セラルヘキコト、喪章ハ皇室喪服規程其他別段ノ定メアルモノヲ除クノ外大喪第一期中(五十日間)左ノ通リトス。

和服　衣服ノ左胸ニ蝶形結ノ黑布ヲ附ス。

洋服　左腕ニ黑布ヲ纏フ。

御大喪ニ關シ國旗掲揚方ノ件

來ル二月七日八日　大行天皇御大喪儀被爲行候ニ付テハ、當日貴町内各戸ニ對シ、必ス弔旗ヲ掲揚セラルヽ樣、御配慮相成度、尙御道筋ニ於テハ、可成軒提灯ヲ掲出シ、其他ハ任意ニテ可然旨本市ヨリ通牒有之候條御了知相成度、此段及御通知候也。

追テ御大喪儀ニ關シ、詳細ニ渉ル事項ハ、更メテ御通知申上ヘキニ付、豫メ御了知相成度、尙提灯ヲ新調セラルル向ハ「奉悼」ノ文字適當ト被存候ニ付、爲念申添候

昭和二年一月十三日

東京市本所區長　田村瑞穂

區内各町會長宛

十五　深川區

聖上崩御ニツキ、深川區ハ區民ニ對シ、大要左ノ如キ注意ヲナス。

一　各戸弔旗ヲ掲ケ敬弔ノ意ヲ表スルコト。

弔旗ノ制式ハ黑布ヲ以テ竿球ヲ蔽ヒ、且竿球ト旗ノ上縁トノ間ニ黑布(長サ旗ノ横幅ニ等シク幅三寸)ヲ附スルコト。

二　廢朝(本日ヨリ六日間)中ハ左ノ件ニ留意スルコト

一　夜警ヲ特ニ嚴ニスルコト。

一　歌舞音曲ヲ遠慮シ謹慎スヘキコト。

三　當分火ノ元用心ヲ特ニ嚴ニスルコト。

四　各人喪章ヲ附スルコト。

喪章ハ洋服ノ際ハ左腕ニ黑布ヲ纏ヒ、和服ノ際ハ蝶形結ヒノ黑布ヲ左胸ニ佩フ。

五　各商店ニ於ケル賣出裝飾等ニ關シテハ適當考慮セラレタキコト。

大正十五年十二月二十五日　　區長

尙內閣告示大喪ニ付一般心得ヲ謄寫配付シ更ニ左ノ注意ヲ爲ス。

一、謹愼靜肅ヲ旨トスルト同時ニ、哀悼ノ極、業ヲ廢シ又體容ヲ失フカ如キコトナキ樣注意スヘキコト。

其三　各學校ニ於ケル敬悼

聖上崩御アラセラルヽヤ、市內各小學校ニ於テハ、東京府學務部長ヨリノ通牒ニ基ク、本市敎育局長ノ訓示ニヨリ、十二月二十五日、全校兒童ヲ集メテ、夫々奉悼式ヲ擧行シ、校長ハ、大行天皇崩御ニ關スル訓話ヲナシ、敬悼謹愼ノ意ヲ表ス

尙市立各學校ニ於テナシタル事項ノ概略ヲ、日本橋區各小學校ノ例ニ依リ示セハ次ノ如シ。

箱崎小學校

昭和元年十二月二十五日、全兒童ヲ召集シテ、奉悼式擧行、訓話ヲナセリ。

同二十七日、學校長區役所ニテ天機奉伺。

同　大行天皇靈柩ヲ奉迎セリ。

同　全兒童ニ喪章ヲ分與セリ。

昭和二年一月十七日、學校長職員一名、兒童總代一名、行幸道路ニ堵列秩父宮殿下ヲ奉迎セリ。

昭和二年二月七日午前九時三十分、遙拜擧行訓話ヲナシ、尙家庭ニ於テ大喪儀最後ノ最敬禮時刻(十一時)ニ、默禱禮拜ヲナスヘキコトヲ指示セリ。

學校長並ニ泉訓導奉送。

日本橋小學校

昭和元年十二月二十五日午後三時、大行天皇崩御奉悼ノ意ヲ表スルタメ、職員兒童ヲ召集シテ、校長ヨリ敬悼ノ謹話ヲナス。

喪章ハ後日保護者會給與品ヲ配布スル旨ヲ告ク。

昭和元年十二月二十七日午後七時、校長ハ職員、兒童ヲ代表シ、葉山ヨリ御還幸ノ御靈轜ヲ、二重橋前ニ於テ奉迎ス。

昭和二年二月七日午前九時三十分、校長職員及代表九名(各級長)、有馬校内ノ遙拜所ニ於テ、遙拜式ヲ行フ。

同日午前十時、校長ヨリ全校兒童ニ、御大喪儀及　大正天皇御盛德ニ關シテ、訓話ヲナシ、後各級毎ニ擔任引率シテ、有馬校内遙拜所ニ於テ遙拜ヲナス。

當日ハ全兒童ニ御供物ヲ配布ス。

遙拜式―遙拜所(有馬校)備付ノ奉悼簿ニ、校長職員住所氏名ヲ謹記ス。當日校長及職員代表一名、午後三時頃二重橋外ニ參集シ御靈轜ヲ奉送ス。

阪本小學校

十二月二十五日、兒童一同ヲ召集、敬悼ノ誠意ヲ表シ、遙拜式擧行。

二十日祭、三十日祭等ニ校長訓話ヲナス。

御大喪儀當日、遙拜式並ニ遙拜所ニ於ケル默禱、當日御供物ノ給與御大喪儀ニ關スル講話、上級生ニ對シ學校長之ヲ行フ。

常盤小學校

十二月二十五日午前一時二十五分、天皇陛下御崩御ノ報知ニ接シ、恐懼措ク所ヲ知ラス、折柄冬季休業中ナリシヲ、職員一同登校ノ上、午前十時急遽兒童ヲ召集シ、學校長ヨリ訓話ヲナシ、敬悼ノ意ヲ表セシム。

同二十七日、聖上陛下宮城御還幸ニツキ、學校長宮城前ニ奉迎ス。

昭和二年二月七日、八日御大葬儀執行セラルルニツキ、七日午前十時ヨリ奉悼式擧行、本區ニテ施設セラレタル逆拜所ヲ參拜ス。

十思小學校

十二月廿五日午前九時、全兒童ヲ召集シ奉悼式ヲ擧ケ、校長ハ　大行天皇ノ御聖德ヲ訓話シ、敬悼勤愼ノ心得ヲ訓示セリ。

同日職員一同ニテ喪章ヲ作製シ、午後三時全兒童ニ交付シテ、着ケシメタリ。

同日校長ハ、兒童總代男女各二名ヲ引率シ、宮內省ニ赴キ敬弔奉伺署名セリ。

十二月二十六日、校長ハ日本橋區役所ニ赴キ敬弔奉伺署名セリ。

十二月二十七日、　大行天皇御還幸ニツキ、校長ハ宮城前ニ赴キ奉迎。

二月七日午前九時、大喪儀敬悼式擧行、校長ハ御大孝ニツキ謹話シ奉悼歌合唱、此際通學區域二十二町會長參列ス。

式後當校內ニ分置セラレタル、日本橋區遙拜所哀悼式ニ際シ、職員及ヒ各學年總代男女各一名計二十四名參拜玉串ヲ捧ク。

尙各學級兒童ハ、受持訓導引率ノ下ニ、右遙拜所ニ於テ神職ノ淸祓ヲ受ケ遙拜シ、御供物トシテ菓子包一個宛頒與セラレタリ。

校長外訓導一名、當夜宮城前ニ於テ、御靈轜奉送ヲナセリ。

二月十日、紀元節前日ニ於テ、御踐祚後朝見ノ儀ニ於テ賜リタル勅語ニツキ、全校兒童ニ聖旨ヲ訓話シ、上級兒童ニ對シテハ、更ニ修身科ニ於テ引續キ謹話スルコトトセリ。

城東小學校

十二月二十五日、崩御ノ報ニ接スルヤ、直ニ小學校兒童並ニ商業補習學校及青年訓練所生徒ヲ召集シテ、敬悼ノ式ヲ擧ク。

御大葬儀當日ハ、本校內ニ設ケラレシ、本區遙拜所ニ於テ、午前九時三十分ヨリ修祓式ヲ擧ケラレシヲ以テ、校長以下職員一同ハ兒童總代ト共ニ之ニ參列シ、式後更ニ校庭ニ於テ小學校兒童、商業補習學校青年訓練所生徒ノ遙拜式ヲ擧ク。

御登遐アラセラレテヨリ後、校長ハ青年訓練所、商業補習學校及青年團員總代ト共ニ數回ニ亘リ、區役所內ニ設置セラレシ、遙拜所ニ御通夜申上ク。

二月七日、校長及訓導ノ一部ハ夫々小學校、幼稚園、商業補習學校及青年訓練所ヲ代表シテ、二重橋前ニ靈轜ヲ奉送シ、一部ハ校內遙拜所ノ警備ヲナス。

濱町小學校

十二月廿五日　大正天皇崩御アラセラレタルニツキ、午前九時職員兒童全部登校、午前十一時校庭ニ於テ、學校長ヨリノ敬悼ノ訓話ヲナシ默禱ヲ捧ク。

兒童ニ保護者會ヨリ喪章ヲ給シ、直チニツケシム。

十二月廿七日、　大正天皇御靈柩車御還幸ニツキ、職員兒童ヲ代表シテ、學校長

ハ午後五時沿道ニテ奉迎。

二月七日、本區々役所ニテ一般區民ノ爲メ、本校々舍内ニ御大喪儀遙拜所ヲ設置ス。

午前九時四十五分ヨリ、職員兒童參列ノ上、遙拜所修祓ノ式ヲ施行、次イテ左ノ次第ニヨリ、御大喪儀遙拜式ヲ擧行ス。

1 敬禮　2 修祓　3 遙拜最敬禮　4 學校長御大喪儀ニツキ訓話。
5 唱歌奉悼歌　6 敬禮。

兒童ニハ敬悼ノ餅菓神饌ヲ供ス。

尙學校ヨリ本校舍内ニ遙拜所ヲ設置セル旨、兒童ヲ通シテ一般家庭ニ通知ス。

翌八日午前一時迄ニ遙拜者約五百名アリ。

此間遙拜所室内ニ高聲ラヂオヲ設置シテ、御大喪儀ニ關スル放送ヲ遙拜者ニ聽カシム。

二月八日午前中一般區民ノ御大喪儀ノ遙拜ヲ受付ク。

千代田小學校

十二月二十五日　大正天皇崩御ニ就キ、全校兒童ヲ招集シテ訓話ヲナシ、葉山ニ向ヒ敬悼ノ誠意ヲ表ス。

十日祭、二十日祭、三十日祭及四十日祭ニハ、前日　陛下ノ御威德ニ就キ訓話ヲナシ敬悼ノ誠意ヲ表ス。

御大喪ニ關スル皇室ノ御模樣、國民ノ誠意、各國ノ同情等ニツキ、時々講話ヲナス。

二月七日本校ニ設ケラレタル遙拜所ニテ、全校職員兒童遙拜ヲナシ、職員兒童ノ代表者御通夜ヲナス。

校長及職員一名本校ヲ代表シ奉送ス。

東華小學校

十二月廿五日　先帝崩御ニ付午前十一時、特ニ兒童一同ヲ學校ニ集メ、奉悼ノ意ヲ表シ、謹愼靜肅質素ニスヘキ旨訓話セリ。

昭和元年十二月廿七日午後五時學校長二重橋外ニ、大行天皇ノ靈柩ヲ奉迎セリ。

同二年二月七日御大喪當日午前八時三十分、日本橋區ニ於テ設ケラレタル當校内ノ遙拜所ニ於テ、學校長職員及兒童總代五名遙拜セリ。

同日午前十時全校兒童ニ對シ、學校長御聖德ヲ述ヘ、大正御在位ノ間ニ於ケル我國ノ發展ト、昭和ノ御理想ニツキ訓話ヲナシタル後、全部校内ノ遙拜所ニ於テ遙拜ヲナセリ。

同日午後六時、學校長及職員代表者一名、二重橋外所定ノ場所ニ於テ靈轜ヲ奉送セリ。

日本橋女子高等小學校

一十二月廿五日全校兒童ヲ召集シ、午後一時ヨリ奉悼式ヲ擧行シ、御諒闇中ニ於ケル心得ヲ訓話ス。

二同廿七日夜學校長　大行天皇ノ御還幸ヲ奉迎シ、翌一月八日御模樣ヲ兒童ニ訓話ス。

三二月七日午前十時ヨリ遙拜式ヲ擧行シ、大正天皇ノ御治績ニ關スル訓話ヲナシ、同十一時ヨリ各學級別ニ、擔任訓導引率シテ坂本小學校ニ設ケラレタル遙拜式ニ參拜ス。

四二月九日學校長ヨリ御大喪儀奉送ノ御模樣ニツキ訓話ヲナス。

備考　十二月廿四日終業式ニ際シ、學校長ヨリ冬季休業中、特ニ謹愼シ毎朝ノ御平癒祈願ヲ家庭ニ於テ續行スヘキ旨訓話ス。

久松小學校

一　先帝御不例ノ旨發表セラルルヤ、兒童職員ヲ召集シ訓話ヲナシ、御平癒ノ祈願ヲナス。

一十二月十五日、校長葉山御用邸ニ學校ヲ代表シテ伺候、御見舞申シ上ク。

一十二月十八日以後御不例御平癒ノ爲、毎朝葉山ニ向ツテ遙拜ス。

一　先帝御崩御遊ハサレタルニ付、遙拜ヲナシ弔意ヲ表シ訓示ヲナス。

一一月一日遙拜式ヲ擧ケ弔意ヲ表シ、併セテ大喪中ノ心得國民ノ覺悟ニ付訓話ス。

一一月十二日大喪中ノ心得ヲ各兒童ニ配布ス。

一二月七日校庭ニ於テ遙拜式ヲ擧ケ、職員兒童總代各二名鹵簿ヲ奉送ス。

有馬小學校

明治神宮へ十二月十一日職員並ニ兒童總代參拜御平癒祈願ヲナス。同日、總代參拜時刻ヲ期シ、職員兒童一同默禱祈願ス。

宮內省へ十二月十七日校長　天機ヲ奉伺ス。同日ヨリ二十四日マテ、每朝校庭ニ於テ、職員兒童ト共ニ默禱御平癒祈願ス。

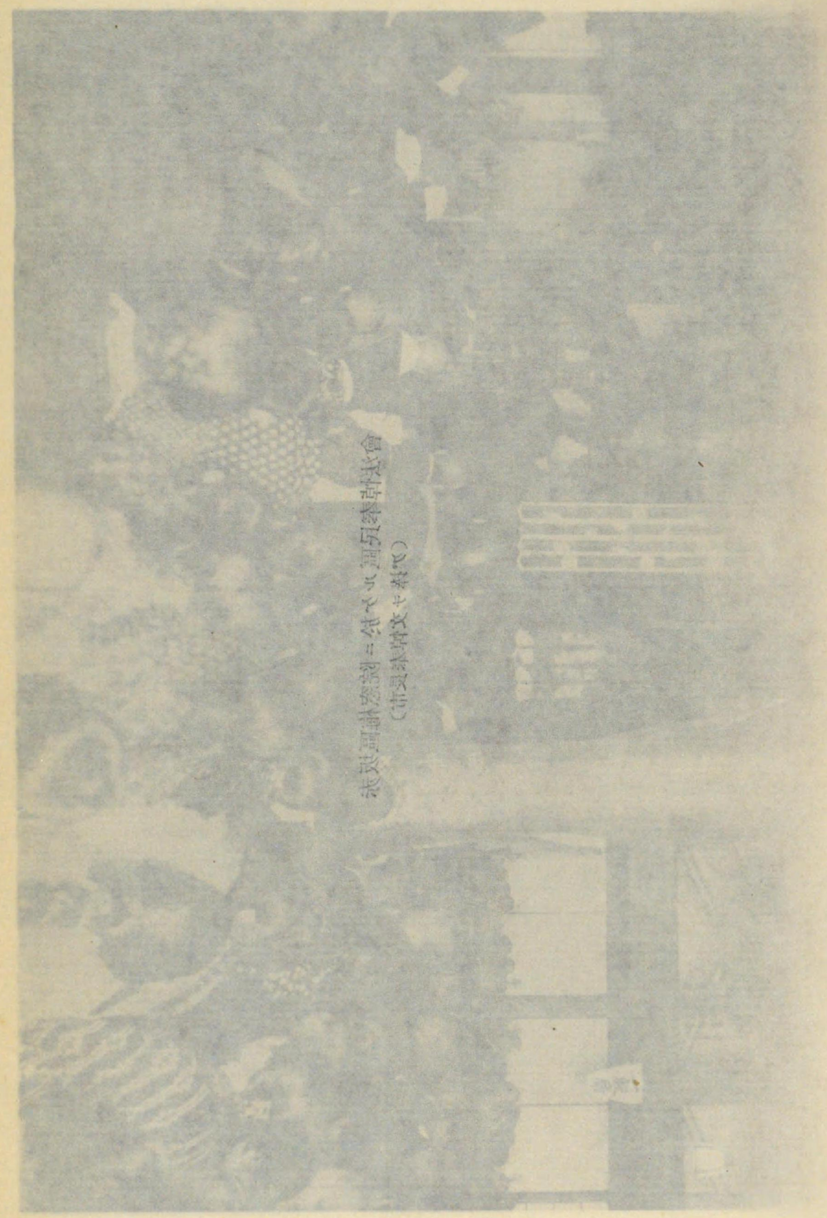
十二月二十五日御崩御ニ關シ、訓話ヲナシ敬悼ノ意ヲ奉シ奉ル、同日職員兒童總代　天機奉伺所ニ出頭ス。

御大喪儀當日遙拜式擧行ス。本校ニ遙拜所ヲ設置セラル。

諒闇中ニ於ケル心得方ヲ印刷シ兒童ニ配布ス。

第三節　市民ノ敬悼

聖上御登遐ノ報傳ハルヤ、市內ハ一齊ニ弔旗ヲ揭ケ、市民皆喪章ヲ附シ、歌舞音曲ヲ停止シ、又在鄕軍人、靑年團、消防組合等連絡



有馬小學校

明治神宮ヘ十二月十一日職員並ニ兒童總代參拜御平癒祈願ヲナス、同日總代參拜時刻ヲ期シ職員兒童一同默禱祈願ス、

宮內省ヘ十二月十七日校長　天機ヲ奉伺ス、同日ヨリ二十四日マテ、每朝校庭ニ於テ、職員兒童ト共ニ默禱御平癒祈願ス、

十二月二十五日御崩御ニ（ア葬ヲ文悼奉長市）ハシ敬悼ノ意ヲ奉シ奉ル、同日職員兒童總代　天機奉伺所ニ出頭ス、

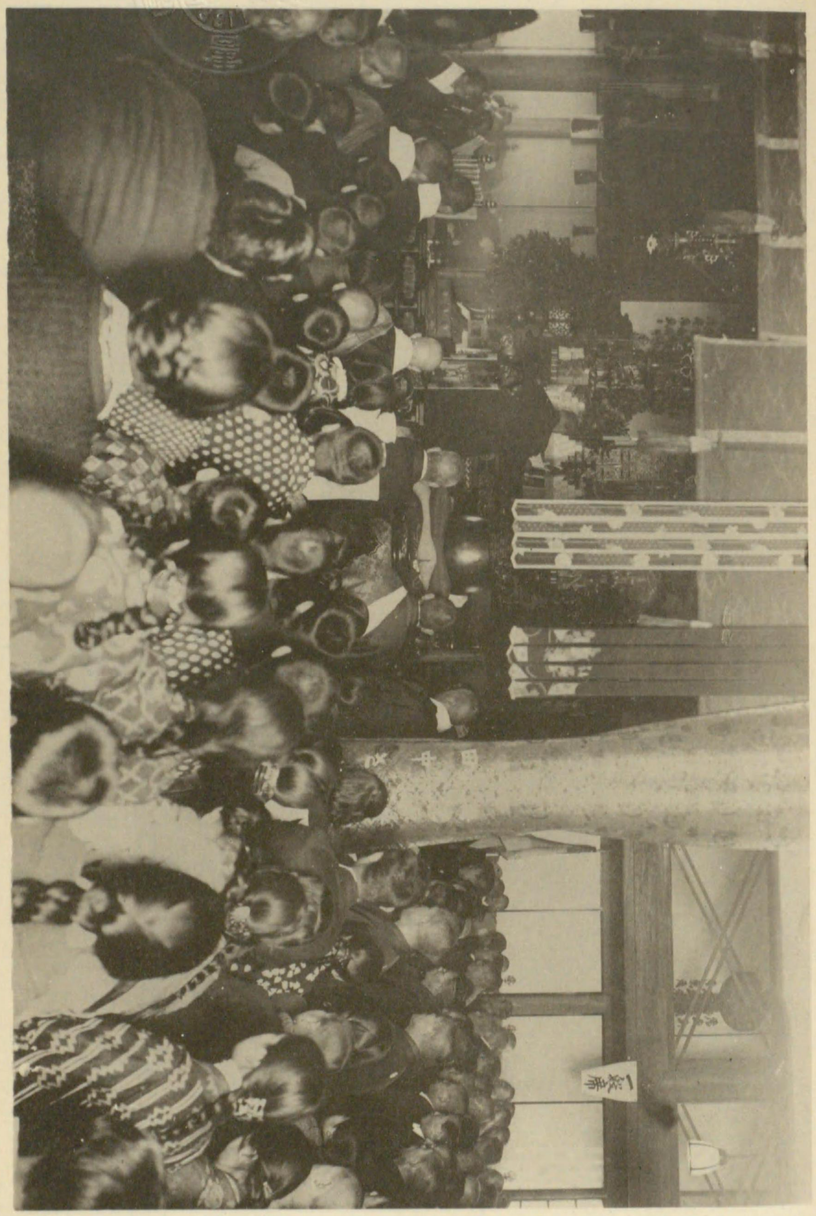
會法悟奉民區ルケ於ニ院慈梅區坂赤

御大喪儀當日遙拜式擧行ス、本校ニ遙拜所ヲ設置セラル、

諒闇中ニ於ケル心得方ヲ印刷シ兒童ニ配布ス、

第三節　市民ノ敬悼

聖上御登遐ノ報傳ハルヤ、市內ハ一齊ニ弔旗ヲ掲ケ、市民皆喪章ヲ附シ、歌舞音曲ヲ停止シ、又在鄕軍人、靑年團、消防組合等連絡



ヲ圖リ、失火等ナキ樣警戒ニツトメ、年末賣出飾ハ取リ去ラレテ、黑白ノ幕ヲ張リ、奉悼裝飾ニ換ヘラレ、市民ハ、市役所及區役所ノ天機奉伺受付所ニ執奏方ヲ願ヒ出ツル外、町會等ニ於テモ自發的ニ遙拜所ヲ設置スルモノ少ナカラス、又各所ニ於テ各宗教團體ハ、追悼法會ヲ催シ、市民皆哀悼ノ意ヲ奉表ス。

次ニ其一例トシテ、赤坂區主催ノ　大正天皇奉悼法會ノ概略ヲ述フレハ次ノ如シ。

大正天皇奉悼法會

昭和二年一月二十八日午後二時、青山南町四丁目梅窓院ニ於テ赤坂區主催ノ奉悼法會ヲ嚴修ス、區會議員區役所吏員協力シテ法會一切ノ事務ニ當リ、內務大臣ノ代理トシテ內務書記官田中廣太郎、東京府知事平塚廣義、東京市長西久保弘道外八百餘名ノ參列者アリテ、午後四時莊嚴裡ニ式ヲ閉チタリ、當日ノ奉悼文ノ主ナルモノ左ノ如シ。

大正天皇ハ惟叡ノ神姿ヲ稟ケテ、九五ノ寶位ニ登リ　先帝ノ洪範ヲ繼承シテ
烈聖ノ皇謨ヲ恢弘シ給フ、蓋シ治國ノ本ハ修身齊家ニ存ス憂勞以テ興スヘシ、逸
豫以テ身ヲ亡スヘシ、況ヤ天災地妖ハ頗ル人事ト交渉アルヲヤ、乃チ知ル、癸亥詔
書ハ　先帝ノ敎育勅語、戊申詔書ト相俟チ、民惰ヲ軫念シテ、荒怠ヲ戒飭シ、羣黎ヲ
シテ適從スルトコロヲ知ラシメ給フ、西歐征戰ハ、曠古ノ慘劇四タヒ星霜ヲ閱テ
財ヲ糜スルコト鉅億犧牲算ナシ、興亡隆替歷々掌ヲ指ス、我帝國亦締盟ノ誼ニ仗
リ、師ヲ禹城山東省ニ出タシテ先ツ青島ヲ略ス、鵬程萬里更ニ旆ヲ地中海ニ進メ、
膺懲功ヲ奏シテ中外之ヲ仰ク、是ニ於テカ國礎磐石國光外ニ輝キ、君臣膠漆民力
內ニ伸フ、嗟乎乃聖乃神億兆普ク仁澤ニ霑フ、乃チ武乃チ文等シク功烈ヲ頌ス、何
ソ料ラン、近年玉體弗豫日ヲ經テ、大漸金縢ノ至誠、布衣ノ悃禱遂ニ驗ナシ、奄チ率
土ヲ棄テ猝ニ登仙ニ及フ、百官ノ慟哭徒ニ弓劒ヲ仰キ、兆民嗚咽痛湯火ニ踰ユ、實
ニ大正十五年丙寅臘月廿五日ナリ、我赤坂區民ハ本日ヲトシ、恭シク　大尊儀ヲ
奉安シ、慇懃ニ時新ヲ薦メ香火ヲ焚キ、禮佛誦經謹ミテ、微臣惻怛ノ意ヲ表シタテ
マツル、方外微臣　了然佛敎各宗ノ諸家ト同シク、叨リニ法儀ヲ主宰シ、恐懼措ク能
伏シテ惟ミルニ

ハス、慙ニ賤懷ヲ披攄シ、虔ミテ奉悼ノ辭ニ擬スト云フ。

昭和二年丁卯一月二十八日　　淨土宗梅窓院董職　方外微臣　了然鞠躬稽首

大正天皇允文允武至聖至仁ニマシマシ、
皇祖　皇宗ノ宏謨ヲ恢弘シ。
明治大帝ノ遠猷ヲ紹述シテ、萬機ヲ親裁シ給フコト、爰ニ十有五年、皇德四海ニ
洽ク、國光中外ニ揚レリ。
先帝畏クモ
明治大帝ノ偉業ヲ繼承シテ、其遺烈ヲ益々發揚シ給ヒ、內外萬般ノ施政ニ進取
革新ノ大精神ヲ以テ、國運ノ伸展ヲ指導シ給ヒ、我カ國史ノ成跡ハ炳トシテ誠ニ
日星ノ如シ、外ハ歐洲大戰ニ參加シテ、能ク國家ノ威信ヲ顯揚シ、國際聯盟ニハ卒
先加盟シ、華盛頓會議ニハ、遠ク使臣ヲ派遣シテ、世界恒久ノ平和ニ軫念シ給ヒ、以
テ世界列强ノ間ニ、帝國ヲシテ最モ重カラシメ給フ。
內ニハ普通選擧法ヲ制定シテ、萬機公論ニ決スルノ趣旨ヲ擴充シ、敎育ノ機關

ハ日ニ整ヒ、殖産ノ事業ハ月ニ進ミ、皇基イヨイヨ固ク國威揚ル、然ルニ大正十一年ノ秋ニ及ヒ、久シキニ亘ル御違例ニ由リテ、東宮ヲ攝政ニ任シ給ヒ、玉體ノ御攝養ヲ專ラトシ給ヒシニ、昨年十一月御惱漸ク重ラセ給フ、億兆ノ赤子恐懼措ク能ハス、天地神明ニ祈願シ、或ハ千代田ノ宮居ニ跪キ、或ハ葉山ノ渚ニ額キテ、御回春ノ一日モ速カニシテ、寶算ノ無彊ナランコトヲ祈リ奉リシニ、舊臘二十五日、御腦俄カニ革マリ、擧國上下ノ赤誠モ、終ニ其ノ甲斐ナク、溘焉トシテ神去リ給フ、今ヤ鳳蓋再ヒ仰キ難シ、朝野驚惶內外號哭セサルナシ、我赤坂區ハ、

先帝幼少ノ御時ヨリ、大統ヲ承ケサセ給ヒマシテ、三十餘年ノ長キニ亘リ、日夕親シマセ給ヘル靑山御所ノ所在地トシテ、我等區民ハ龍顏ヲ拜シ奉ル機會ノ多カリシ往時ヲ追懷シ、痛措哀悼ノ念更ニ切ナルモノアリ茲ニ本日ヲ以テ法會ヲ營ミ、區民ノ至情ヲ披瀝シ、謹ンテ奉悼ノ誠意ヲ表シ奉ル。

昭和二年一月二十八日

東京市赤坂區長　臣　益田貫一

恐懼恐惶

東京市赤坂區會議長臣本之助誠恐誠惶頓首頓首謹ミテ白ス、恭シク惟ルニ大正天皇天資叡聖允文允武夙ニ

明治大帝中興ノ偉業ヲ繼紹シ賜ヒ、宏謨因リテ以テ泰ク、國礎因リテ以テ堅シ、皇澤中外ニ洽ク、國威八荒ニ顯揚ス、曩ニ御不例ニ渡ラセラルル趣ヲ拜スルヤ、臣等常ニ皇恩ノ優渥ナルニ、感泣スル八千萬赤子ハ、御平癒ノ一日モ速カニシテ、聖壽ノ天壤ト共ニ、無彊長久ナランコトヲ祈願シ奉リシ御甲斐モ空シク、今ヤ勿焉トシテ、御登遐セサセ賜ヒ、世ハ諒闇ノ悲シキ愁雲ニ包マル、此ノ大故ニ接スルヤ、朝野ノ爲メニ慟哭、中外爲メニ錯愕、天地晦冥日月亦光ヲ失フ、洵ニ悲哀痛悼ノ極ミニ禁ヘス、臣等憂愁恐懼措クトコロヲ知ラス、本區ハ

先帝陛下御生誕御生育アラセラレタル、一大光榮ノ地域ニシテ、畏レ多クモ御親ミ最モ深キ由緒ノ地位ニ在リ、區民奉悼ノ誠意ヤ一層切ナリ、東京市赤坂區會ハ、昭和二年一月十八日、區會ヲ開キ、特ニ決議ヲ具シ、崩御セラレ賜ヒシヨリ、五七日忌相當ノ本日ヲトシ、佛敎各派ノ淨侶ヲ延請シ、茲ニ謹ミテ

大正天皇御奉悼法要ノ式典ヲ嚴修シ、汎ク區民ト共ニ献香禮拜シ、以テ奉悼敬虔ノ誠意ヲ表シ奉ル、臣本之助誠恐誠惶頓首頓首謹ミテ白ス。

昭和二年一月二十八日

東京市赤坂區會議長　臣　野口本之助謹上

大正天皇　之レ神、之レ聖、大ニ德教ヲ布キ、夙ニ明治ノ乾業ヲ紹隆シ給ヒ、允ニ誠惶誠懼恭シク惟ミルニ文允ニ武博ク仁惠ヲ施サレ、萬國ニ其威ヲ仰カシメ給ヘリ、然ルニ大正十五年初秋、玉體弗豫上下丹誠ヲ一ニシテ、聖躬ノ萬壽ヲ悃禱シ奉レリ、而モ赤子ノ號泣モ、天日ノ長ヘニ沒スルヲ回スニ力ナク、登遐アラセラレテヨリ、茲ニ五七日愁雲深ク鳳闕ヲ鎖サシ、八千萬ノ民草ハ悲痛哀咽、嗚呼何モノカ之ニ加ヘン、殊ニ我赤坂區ハ　大正天皇御生誕ノ地ニシテ、之レ區民ノ等シク畏ミ奉ル所ナリ、サレハ聖恩ニ賴リテ犬馬ノ力ヲ致シ宏刻ニ遵ヒテ涓滴ノ微ヲ捧クルノ至誠ハ、微臣等常持ノ赤心ナリ、而モ此ノ　大故ヲ拜ス。

哭天慟地措ク所ヲ知ラス、茲ニ本日

大尊儀ヲ請シ奉リ、微臣等至哀至悼ノ誠意ヲ披瀝シ敬テ白ス、

昭和二年一月二十八日

赤坂區會

奉悼御法會委員長　窪田哲之助

天地凄慘諒闇ニ在リ、日月陰翳大喪ニ命ス、嗚呼哀哉恐懼己ムナク慟哭措ク處ヲ知ラス、恭シク惟フニ

大正天皇神聖慈仁

宏謨ヲ

祖宗ニ紹キ、平和ヲ四表ニ宣ヘ、億兆

德化ニ服シ、中外

大業ヲ仰ケリ、今ヤ遠ク人天ヲ距テタマヒ、遙ニ

殯宮ヲ拜ス、嗚呼哀哉

赤坂區會茲ニ議ヲ決シ、區民齋戒齊シク敬悼ノ微忱ヲ表シタテマツル　臣廣義

乏ヲ本職ニ承ク、謹ミテ場ニ臨ミ、稽首肅拜恭シク奉悼ノ辭ヲ上ル。

昭和二年一月二十八日

東京府知事正四位勳三等　臣　平塚廣義

叡聖文武
大正天皇
御登遐アラセラレ、我等輦轂ノ下ニ在テ、日夜聖恩ノ渥ニ浴スル者、悲痛恐懼ノ至ニ堪ヘス、本日此式ニ列シ、愁傷更ニ深シ、茲ニ謹テ、哀悼ノ誠意ヲ表シ奉ル。

昭和二年一月二十八日　東京市長　西久保弘道

第五章　御靈柩ノ還御

大行天皇　靈柩、葉山御用邸ヨリ還御ニツキ、左ノ如ク官報號外ヲ以テ發表セラル。

宮內省告示第三號

大行天皇　靈柩ヲ、明二十七日葉山御用邸ヨリ、東京宮城ヘ奉遷セラル。

昭和元年十二月二十六日　宮內大臣　一木喜德郎

宮內省告示第四號

大行天皇　靈柩、東京宮城ヘ奉遷ニ付、皇太后陛下明二十七日葉山御用邸ヨリ、東京宮城ヘ還御アラセラルヘキ旨、仰出サル。

昭和元年十二月二十六日　宮內大臣　一木喜德郎

御靈柩奉遷御發著割

大行天皇　靈柩、十二月二十七日、葉山ヨリ宮城ヘ奉遷御發著割左ノ如シ。

午後四時五十分　葉山御用邸御出門
同五時三十五分　逗子驛御發車
同七時五分　原宿驛御著車

皇太后宮還御御發著割

皇太后陛下明二十七日葉山ヨリ還御發著割左ノ如シ。

午後四時五十分　葉山御用邸御出門

同五時三十五分　逗子驛御發車

同七時五分　原宿驛御著車

大行天皇靈柩奉迎

大行天皇　靈柩、宮城ヘ奉遷ニ付、原宿驛ニ於テ、奉迎ノ資格、範圍日時及服裝、左ノ通定メラル。

資格

一宮中席次第一階第一乃至第十五

一宮內勅任官總代三人

一宮內奏任官總代二人

一在京各廳勅任官總代各一人

一在京各廳奏任官總代各一人

一公侯伯子男爵總代各一人

一朝鮮貴族總代一人

一貴族院議員總代三人

一衆議院議員總代三人

一東京市長

日時　十二月二十七日午後六時三十分マテニ參集

服裝　通常服、高帽、通常禮服制アル者ハ之ニ相當スル服

御公示ノ如ク　大行天皇ノ御靈柩ハ、廿七日午後四時四十分、葉山新御用邸御出門、御靈柩馬車ハ近衞騎兵四十名ノ儀仗兵ニ守ラレ、御馬車ノ直後ニ　皇太后陛下、自動車ニ乘御、續イテ直宮御總代トシテ高松宮殿下ノ自動車、皇族御總代トシテ、閑院元帥

宮殿下伏見宮殿下ノ自動車、順次御用邸ヨリ逗子驛御着、官民ノ奉迎送ヲ受ケサセラレ、逗子驛ニテ海軍將校十名ニヨリ、御馬車ヨリ御靈柩列車ニ移御申上ケ、　皇太后陛下御同列ニテ、午後五時三十分同驛御發、午後七時原宿驛御着。

原宿皇室專用驛ニハ、久邇宮同妃、梨本宮同妃各殿下ヲ始メ、東郷、奥、井上、上原、各元帥、宇垣、幣原、岡田、江木、片岡、町田、藤澤各國務大臣、倉富、平沼樞密院正副議長、鈴木參謀總長、鈴木軍令部長、各樞密顧問官、齋藤朝鮮總督、久邇、小松兩侯爵以下親任官、宮内省勅任奏任官各代表、各官廳勅任官總代、貴族院議員總代、衆議員總代、西久保東京市長等ノ高官重臣、着御ヲ御奉迎申上ク、御靈柩車ハ靜ニ原宿驛ニ進ミ來リ輪立ノ轢リ悲シク、一同ノ最敬禮中ニ停車スルヤ、東京鐵道局增田技工長列車ニ近ツキ、　皇太后陛下ノ在シ給フ御列車ノ扉ヲ御開キ申上ケ、續イテ草刈工作課長御靈柩車ノ御扉ヲ御開キ申上ケ、菊花ノ御紋章アル黑布ニテ覆ハレタル御靈柩ハ、近衛歩兵第一聯隊長井上大佐ノ指揮スル、近衛將校十五名御馬車ニ移御申上ケ、午後七時五分別記鹵簿編成、敷キ清メタル白砂ノ道ヲ、徐ニ御順路宮城ニ還御遊ハサル。

滿都ノ市民ハ悲痛新ニ、薄暮迫ル頃ヨリ御靈柩ノ還御ヲ迎ヘ奉ラムト、御道筋ニ群集下座シテ、寒夜襟ヲ正シテ待チ奉ル。

此ノ日ニ於ケル、沿道御警衛ハ、葉山新御用邸ヨリ逗子驛マテノ間ハ海軍儀仗兵二千名、横須賀重砲兵五百名及警官、憲兵相協力シ沿道御警衛ノ任ニ當リ、原宿、宮城間ハ磯村警備司令官ノ指揮下ニ、近衛第一兩師團及陸軍諸學校生徒、警官、憲兵ト協力シテ御道筋御警衛ノ任ニ當レリ。

御靈柩還御ノ御道筋

大行天皇ノ御靈柩ハ、葉山新御用邸ヨリ、品川驛ヲ經テ、原宿驛ニ着御、直ニ宮城ニ還御遊ハサル。

其ノ御道筋ハ、明治神宮表參道ヲ青山通リニ出テ、左折シテ青山師範學校前、青山一丁目、表町、豐川稻荷前ヲ經テ一路赤坂見附ニ下リ、閑院宮邸先平河町五丁目ヨリ右ニ折レ、永田町通リヲ霞ケ關ニ至リ、日比谷公園裏門通リニ出テ左ニ曲リ、府立第一中學校脇ヲ一直線ニ、宮城ニ着御遊ハサル。

御靈柩鹵簿

大行天皇ノ　御靈柩ハ、十二月二十七日午後七時五分、原宿驛着御ト共ニ、左ノ特別鹵簿ニヨツテ、宮城ニ還御遊ハサル。

警部騎馬　侍從　近衛將校騎馬
近衛騎兵　大行天皇靈柩御馬車　侍從、侍從武官陪乘
警部騎馬　侍從武官　馬車　近衛將校騎馬

宮內技師騎馬　近衛騎兵　皇太后御馬車女官陪乘　近衛將校騎馬　近衛將校騎馬　近衛騎兵　高松宮馬車

親王代表閑院宮　馬車　女官馬車　侍從　德川侍從長

王代表伏見宮　馬車　侍從武官　馬車　奈良侍從武官長馬車　侍醫

一木宮內大臣　馬車　宮內書記官　馬車　警部騎馬

大森皇太后宮太夫　皇太后宮事務官　近衛騎兵　警部騎馬

第一節　市ノ奉迎

其一　市長ノ奉迎

十二月二十七日、大行天皇靈柩東京宮城ヘ奉還アラセラルヘキ旨、十二月二十六日官報號外ヲ以テ告示セラレ、同日御發著割並御道筋等、東京市長ニ通牒有リ。

昭和元年十二月廿六日

東京市長　殿

宮内大臣官房庶務課長

通牒

大行天皇靈柩東京宮城ヘ奉遷ニ付、皇太后陛下來二十七日葉山御用邸ヨリ、東京宮城ヘ還御アラセラルヘキ旨被仰出、御發著割竝市内御道筋別紙ノ通(前掲ニツキ略)

同日宮内大臣ヨリ、市長ニ對シテ二十七日午後六時三十分、原宿驛ヘ參集スヘキ旨通知アリ、市長西久保弘道、同所ニ於テ奉迎ス。

昭和元年十二月二十六日

東京市長　西久保弘道　殿

宮内大臣　一木喜德郎

來二十七日午後七時五分、大行天皇還御被爲在候ニ付、奉迎ノ爲通常服(第一

期ノ喪章ヲ附ス)著用、同六時三十分原宿驛ヘ參集相成度。

其二　市區名譽職、吏員奉迎

市區名譽職、吏員ノ　大行天皇靈柩奉迎ニ關シ、警視廳ト打合セヲ爲シ、當日靈柩原宿驛御着一時間前ニ、所定ノ奉迎場所ニ入リ、奉迎スルコトヽナリ、二十六日附ヲ以テ、市役所ヨリ市會議員、區會正副議長、區長、助役、市參與、收入役、理事、課長及之等ニ準スル者ニ宛テ、左ノ如ク通知シ、參集者ニ對シテハ、團體名ヲ表示シタル徽章ヲ交付シ、之ヲ左胸部ニ佩用シテ、奉迎場所ニ入リ奉迎ス。

大行天皇御靈柩來ル二十七日午後七時五分原宿驛御着、宮城入御ニ付、當日左記各項ニ依リ、奉迎相成度、此段御通知候也。

昭和元年十二月二十六日

東京市役所

宛

記

一奉迎場所　二重橋前北側(別紙圖面參照)

二服　裝　フロックコート、モーニングコート又ハ紋付羽織袴、帽ハシルクハット又ハ黑山高帽

三時　刻　午後五時五十分迄ニ市會議場第一議員室ニ御參集午後六時同所出發奉迎場所ニ參集(警戒ノ都合上右時刻後ハ入場ヲ許サレサル趣ニ付御含相成度候)

團體奉拜者心得

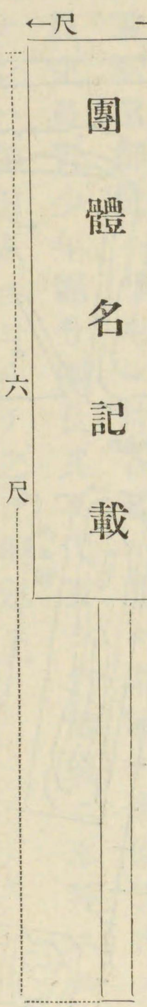
一奉拜團體ハ主幹者ヲ定メ團員ノ指揮監督ニ任シ、團體ノ秩序靜謐保持竝奉迎ノ赤心表示ニ關シ團員ノ行動ニツキ其ノ責ニ任スルコト。

二奉拜團體ハ御道筋以外ノ適當ノ場所ニ集合シ、主幹者引率ノ下ニ午後　時分迄ニ指定地點ニ到着整列スルコト。

三前項時刻後ハ入場ヲ許サス。

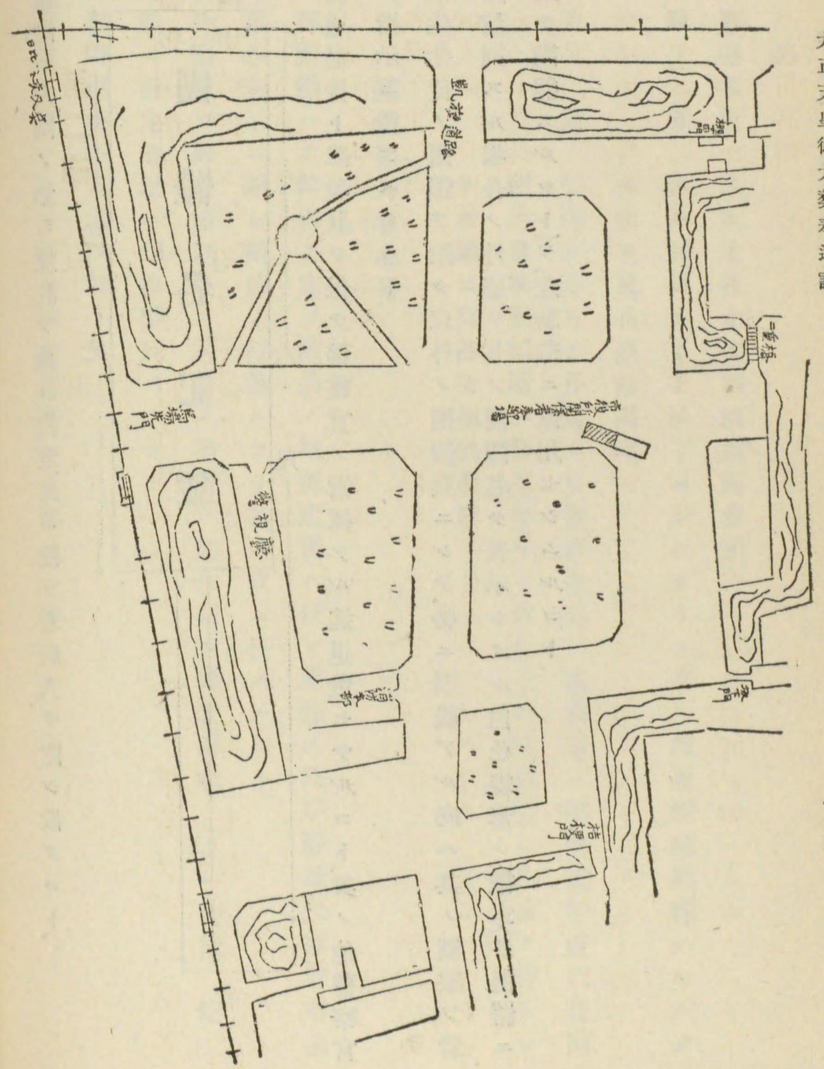
四團體員ニアラサル者ヲ指定箇所ニ入場セシメサルコト。

五團體ハ左圖ノ如キ立札ヲ豫メ指定地ニ建テ看視人ヲ附シ置クコト。



六御通過後ト雖現狀ヲ保チ警察官ノ指揮アル迄退散セサルコト、其ノ他警察官ノ指示ニ從フヘキコト。

七學生生徒ノ團體ヲ除ク以外ノ團體員ニシテ、特ニ制服アル向ハ其ノ制服ヲ着用堵列スル場合ノ外、總テ其ノ團體名ヲ表示シタル白色蝶形ノ徽章(各團體ニ於テ調製スルコト)ヲ、左胸部ニ佩用セシムルコト。



第二節　區ノ奉迎

御靈柩還御遊ハサルニ付、各區ハ其々奉迎ノ準備ヲナス、區名譽職員、吏員、青少年團分團長其々代表シテ、沿道ニ奉拜スルコト同樣ナレハ、神田區ニヨリテ之ヲ例示ス。

大行天皇御靈柩奉拜希望者ヘ通知ノ件

昭和元年十二月二十六日大行天皇御靈柩來ル廿七日、午後七時五分原宿驛御着。宮城入御ニ付、區會議員、區名譽職待遇者、區學務委員ヘ奉拜希望ノ向ハ左記各項了承ノ上、當役所ニ參集方通知ヲ發シタリ。

記

(一)奉拜場所ハ警視廳警務部企劃課ニ於テ指定選定中明午前十時決定ノ筈。
(二)時刻午後五時迄ニ區役所ニ參集シ指定地點ニハ午後六時迄ニ入場スルコト。
(三)服裝ハフロックコート、モーニングコート又ハ紋付羽織袴帽ハシルクハット又ハ黑山高帽。

(四)徽章佩用　團體名ヲ表示シタル白色蝶形徽章ニシテ準備シアルヲ以テ區役所ニ參集ノ節交付ス

大行天皇御靈柩奉拜ノ件

昭和元年十二月二十七日午後八時、大行天皇御靈柩宮城入御アラセラルヽヲ以テ、區會議員及區名譽職待遇者並ニ區學務委員ヲ奉拜者團體トシ、當日午後五時區役所ニ參集、區ノ吏員之ヲ引率シ、同五時五十分警視廳指定場所宮城前廣場)ニ到着同七時五十分奉拜セリ

奉拜者三十六名

昭和元年十二月廿七日午後八時、東京市聯合青年團ニ於テハ、宮城前廣場ニ於テ、大行天皇御靈柩奉拜ニ對シ、神田區青年團ヨリ團長代理分團長代表四人參列奉拜セリ。

第三編　御大喪儀

第一章　大喪使官制

大正天皇大喪儀ニ關シ、皇室喪儀令ノ定ムル處ニヨリ、宮中ニ大喪使ヲ置キ、大喪儀ニ關スル事務ヲ掌理セシム。

大喪使官制ハ、昭和元年十二月二十五日官報號外ヲ以テ、左ノ如ク公布セラル。

朕大喪使官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム。

御名御璽

昭和元年十二月二十五日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵幣原喜重郎

文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第一號

大喪使官制

第一條　大喪使ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬シ大行天皇ノ大喪ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　大喪使ニ總裁ヲ置ク
總裁ハ皇族ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第三條　大喪使ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　一人
次官　二人
事務官　若干人
書記　若干人

第四條　長官ハ之ヲ勅命ス
次官及事務官ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
書記ハ長官之ヲ命ス

第五條　長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ使務ヲ總理ス
長官事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名スル次官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　次官ハ長官ヲ輔ケ使務ヲ掌理ス

第七條　事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第八條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　祭事ヲ掌ラシムル爲大喪使ニ左ノ職員ヲ置ク

祭官長　一人

祭官副長　二人
祭官　若干人
祭官補　若干人

第十條　祭官長、祭官副長及祭官ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

祭官補ハ長官之ヲ命ス

第十一條　官職ヲ有スルニ因リ大喪使職員ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ其ノ官職ニ付受クル待遇ニ依リ其ノ他ハ長官ハ親任官、次官祭官長及祭官副長ハ勅任官、事務官ハ勅任官又ハ奏任官、祭官ハ奏任官、書記及祭官補ハ判任官ノ待遇トス

第十二條　官職ヲ有スルニ因リ大喪使職員ヲ命セラレタル者其ノ官職ヲ退キタルトキハ退職ス

第十三條　使務ノ處理ニ關スル規程ハ長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

次テ十二月二十七日、閑院宮載仁親王殿下大喪使總裁ヲ仰付ラレ、大喪使長官ニ宮内大臣一木喜德郎、大喪使次官ニ内閣書記官長塚本清次、宮内次官關谷貞三郎、大喪使祭官長ニ公爵一條實孝、大喪使祭官副長ニ伯爵柳原義光、伯爵清水谷實英仰付ラレ、大喪使事務官以下左ノ如ク仰付ラル。

内閣書記官　長谷川赳夫
同　村瀨直養
同　田原和男
同　館哲
同　林茂
内閣總理大臣秘書官　木村小左衞門
法制局長官　山川端夫
法制局參事官　金森德次郎
樞密院書記官　大谷正男

宮内大臣祕書官　野口明
宮内書記官　木下道雄
同　岩波武信
同　武宮雄彦
同　本多猶一郎
宮内事務官　男爵　白根松介
宮内事務官　大木彝雄
宮内事務官　子爵　加藤泰通
式部官　渡邊信
同　山縣武夫
同　武井守成
同　醍醐忠直
式部官　子爵　相馬孟胤
掌典　星野輝興
宗秩寮總裁　子爵　仙石政敬

諸陵頭　杉榮三郎
大膳頭　上野季三郎
内藏頭　杉琢磨
内匠頭　男爵　東久世秀雄
宮内技師　北村耕造
同　鈴木鎮雄
同　深尾代治
同　森泰治
主馬頭　西園寺八郎
帝室會計審査局長官　入江貫一
内大臣祕書官長　河井彌八
皇太后宮事務官　西邑清
外務次官　出淵勝次
外務書記官　藤井啓之助
大使官參事官　子爵　岡部長景

內務次官	川崎卓吉
內務省警保局長	松村義一
大藏次官	田昌
大藏省主計局長	河田烈
大藏書記官	佐野正次
陸軍次官	畑英太郎
陸軍步兵大佐	林桂
陸軍步兵少佐	伊藤知剛
同	寺倉正三
海軍次官	大角岑生
海軍大佐	寺島健
海軍少佐	戸塚道太郎
鐵道次官	八田嘉明
鐵道省運輸局長	種田虎雄
警視總監	太田政弘
警視廳書記官	中谷政一
從三位勳三等伯爵	壬生基義
從三位伯爵	勸修寺經雄
正四位伯爵	大原重明
正四位子爵	堤雄長
從三位勳二等子爵	日野西資博
從三位勳三等功四級子爵	小倉英季
從三位勳三等子爵	豐岡圭資
正三位勳三等功四級子爵	高倉永則
從四位勳四等子爵	三室戸敬光
從三位勳三等子爵	今城定政
從四位子爵	持明院基揚
從三位勳三等功五級子爵	田村丕顯
從三位子爵	小出英延
正三位勳四等子爵	有馬純文

（各通）

正四位男爵　九條良政
正五位　唐橋在知
從五位　藤井兼誼
從五位　久世章業

是ニ於テ十二月三十日、大喪使初會議開カレ、總裁閑院宮載仁親王殿下ノ優渥ナル令旨ニ次テ、若槻首相、一木長官ノ訓示アリ。

閑院總裁宮令旨

茲ニ大喪使ヲ置カレ總裁ノ任ヲ辱クス、長官以下ノ拮据瘁勵ニ頼リ、大儀以テ擧カリ、克ク其ノ始アリ、克ク其終アランコトヲ庶幾フ。

若槻首相訓示

一意御腦ノ御平癒アラセ給ハンコトヲ祈リ奉リタルニ、遽ニ先帝ノ登遐アラセラルヽニ遭フ、臣民孰レカ哀悼ノ情ニ勝ヘマツラム、茲ニ、大喪使ヲ置カレ、載仁親王殿下總裁ノ下ニ、長官以下ノ職員各々任命セラレタリ、儀禮ハ固ヨリ莊重ヲ尚フモ、而カモ質素ヲ旨トスヘシトノ　聖旨ヲ奉體シ、皇室喪儀令ノ定ムル所ニ遵ヒ、各般ノ施設其宜シキヲ失ハス職員一同協力黽勉用意周密能ク其ノ事ニ從ヒ大儀ヲ奉行スルニ於テ、毫未遺憾ナカランコトヲ望ム。

一木大喪使長官訓示

不肖大喪使長官ノ重任ヲ荷ヒ、茲ニ總裁宮殿下ノ令旨ヲ拜シ、恐懼ノ至ニ堪ヘス。

大行天皇御腦久シキニ渉ラセ給ヒタルニ、遽ニ諒闇ニ遭、哀傷ノ感禁スル能ハス、茲ニ大喪使ヲ置カルヽノ始ニ當リ、一言スルトコロアラントス、大喪ノ儀禮ハ質素ヲ旨トスヘシトノ聖旨ヲ奉體シ、皇室喪儀令ノ定ムル所ニ遵ヒ、各般ノ事務經紀宜シキヲ得ルニ勉メ、職員一同協心戮力以テ大儀奉行ノ職責ヲ全フセンコトヲ望ム。

是日大喪使處務規定ヲ發表シ、大喪使ニ評議會、長官官房及儀式部、山陵部、工營部、用度部、鐵道部、主計部ノ六部ヲ置キ、左ノ如ク職員ヲ任命セラル。

大喪使處務程、昭和元年十二月三十日、左ノ如ク定メタリ。（昭和

二年一月四日官報）

大喪使處務規定

第一條　大喪使ニ評議會、長官官房及左ノ六部ヲ置ク

儀式部
山陵部
工營部
用度部
鐵道部
主計部

第二條　評議會ハ長官ノ諮問ニ依リ重要ノ事項ヲ審議ス

第三條　長官官房ニ於テハ各部ニ屬セサル一切ノ事務ヲ掌ル

第四條　儀式部ニ於テハ祭儀典式ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　山陵部ニ於テハ山陵ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　工營部ニ於テハ山陵造營及建築其ノ他ノ工事ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　用度部ニ於テハ物件ノ購入供給運送及雜役ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　鐵道部ニ於テハ鐵道ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　主計部ニ於テハ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　評議會ニ會員及幹事、各部ニ部長ヲ置ク

第十一條　評議會ノ議事ハ長官之ヲ整理シ長官事故アルトキハ長官ノ指名シタル次官之ニ代ル

第十二條　職員ノ所屬ハ長官之ヲ定ム

（各　通）

大喪使次官　塚本清治
同　關屋貞三郎
大喪使事務官　山川端夫
同　入江貫一
同　田昌
同　西園寺八郎

評議會會員ヲ命ス

同　金森德次郎

（各　通）

大喪使事務官　長谷川赳夫
同　男爵　白根松介
同　木下道雄
同　山川端夫
同　二上兵治
同　太田政弘
同　上野季三郎
同　入江貫一
同　河井彌八
同　子爵　仙石政敬
同　川崎卓吉
同　西園寺八郎
同　大谷正男
同　渡邊信

評議會幹事ヲ命ス

（各　通）

大喪使事務官　金森德次郎
同　松村義一
同　長谷川赳夫
同　男爵　白根松介
同　子爵　加藤泰通
同　木村小左衞門
同　木下道雄
同　藤井啓之助
同　田原和男
同　中谷政一
同　本多猶一郎
同　岩波武信
同　館哲二
同　武宮雄彥
同　西邑清

長官官房勤務ヲ命ス

儀式部長ヲ命ス

（各　通）

大喪使事務官　林　茂

同　野口明

同　子爵　仙石政敬

同　出淵勝次

同　大角岑生

同　西園寺八郎

同　畑英太郎

同　子爵　岡部長景

同　男爵　白根松介

同　子爵　相馬孟胤

同　寺島健

同　山縣武夫

同　林桂

儀式部員ヲ命ス

山陵部長ヲ命ス

（各　通）

山陵部員ヲ命ス

大喪使事務官　藤井啓之助

同　戸塚道太郎

同　武井守成

同　本多猶一郎

同　醍醐忠直

同　寺島正三

同　伊藤知剛

同　星野輝興

大喪使事務官　杉榮三郎

大喪使事務官　男爵　東久世秀雄

大喪使事務官　北村耕造

同　岩波武信

同　星野輝興

工營部長ヲ命ス　大喪使事務官　男爵　東久世秀雄

（各　通）

工營部員ヲ命ス　大喪使事務官　北村耕造
用度部長ヲ命ス　同　鈴木鎮雄
同　深尾代治
同　森泰治

（各　通）

用度部員ヲ命ス　同　杉琢磨
鐵道部長ヲ命ス　同　大木彝雄
鐵道部員ヲ命ス　同　種田虎雄
主計部長ヲ命ス　同　武宮雄彦

大喪使事務官
八田嘉明
同　種田虎雄
同　田昌

（各　通）

同　河田烈
同　佐野正次
同　村瀨直養

主計部員ヲ命ス（以上元年十二月三十日大喪使）

第二章　大喪儀次第

第一節　大喪儀

其一　大喪儀期日及場所

告示（昭和二年一月四日官報號外）

大行天皇ノ大喪儀ヲ行ハセラルヽ期日及場所、左ノ通リ定メラル。

昭和二年二月七日　新宿御苑
同年同月八日　陵所

昭和二年一月四日

〔附記〕

大喪儀時刻表

宮内大臣　一木喜德郎
内閣總理大臣　若槻禮次郎

七日

五時三十分　御行列先頭警官オヨヒ儀仗隊赤坂區葵橋ヲ起點トシテ豫メ整列出發命令ヲ待ツ

同　時　勳一等以上ノ諸員ハ御車寄前ニ以下ハ二重橋前松林内テント内參集

五時五十分　聖上並ニ皇太后陛下ニハ靈轜奉送

六　時　靈轜御發引(コノ間陸軍百一發弔砲、海軍四十八發分時禮砲發射)

八時三十分　靈轜葬場殿御着

九　時　葬場殿ノ御儀始マル

十一時　諸員拜禮(コノ時全國一セイ遙拜、汽車電車等一分間停車)

十二時　御靈柩ヲ列車ニ奉遷ス

八日

午前零時十五分　靈柩列車御發車

一時二十分　靈柩車東淺川假驛御着

一時五十分　葱華輦東淺川假驛御發引

二時二十分　葱華輦陵所ニ御着

五　時　陵所ノ儀御開始六時御儀終了

其二　御陵所

宮内省告示第一號

御陵所

大行天皇ノ陵所、左ノ通定メラル。

武藏陵墓地ノ内横山村大字下長房字龍ケ谷戸

昭和二年一月三日

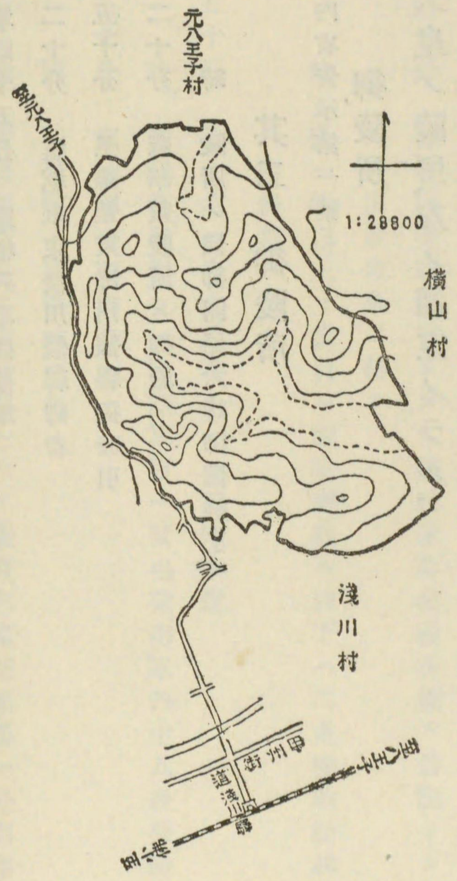
宮内大臣　一木喜德郎
内閣總理大臣　若槻禮次郎

陵墓地ノ名稱所在及地域、左ノ通定メラル。

名　稱　武藏陵墓地

所在及地域　東京府南多摩郡横山村・淺川村及元八王子村

所在御料地ノ内左圖ノ地域



昭和二年一月三日

官内大臣　一木喜德郎

御陵名

宮内省告示第六號

大正天皇ノ陵名左ノ通定メラル

多摩陵（タマノミサザキ）

昭和二年二月八日

宮内大臣　一木喜德郎

其三　靈轜通御御道筋

殯宮ヨリ葬場殿ニ至ル、靈轜通御御道筋、一月二十六日、官報ヲ以ツテ、左ノ如ク公表セラル。

大喪儀當日、靈柩通御ノ御道筋、左ノ通定メラル。

宮城葬場殿間

宮城正門ヲ出テ、祝田町新道四ツ角右ヘ、府立第一中學校角右ヘ、櫻田門前左ヘ、虎ノ門跡右ヘ、溜池町通リ赤坂見附跡左ヘ、赤坂表町通リ青山一丁目右ヘ、青山

御所外廓ニ沿ヒ、信濃町橋ヲ渡リ左ヘ、鐵道線路ニ沿ヒ右ヘ、新宿御苑正門ヲ入リ葬場殿ヘ。

御名代

大喪儀御名代ハ、二月七日官報號外ヲ以ツテ、左ノ通リ公表セラル。

本月七日、轜車發引ノ儀中、鹵簿内　天皇御名代ヲ雍仁親王ニ、同日靈代奉安ノ儀、斂葬當日殯宮祭ノ儀、葬場殿ノ儀ニ、皇后御名代ヲ故恒久王妃昌子内親王ニ、同八日斂葬ノ儀中、鹵簿内及陵所ノ儀ニ　天皇御名代ヲ雍仁親王ニ、同日陵所ノ儀ニ、皇后御名代ヲ故恒久王妃昌子内親王ニ、皇太后御名代ヲ鳩彦王妃允子内親王ニ、同九日斂葬後一日權殿祭ノ儀、斂葬後一日山陵祭ノ儀ニ、皇太后御名代ヲ稔彦王妃聰子内親王ニ、同十二日山陵五十日祭ノ儀ニ、天皇御名代ヲ雍仁親王ニ、同日權殿五十日祭ノ儀、山陵五十日祭ノ儀ニ、皇后御名代ヲ鳩彦王妃允子内親王ニ被仰付旨、御沙汰アラセラレタリ。

葬場殿行幸啓

二月七日大喪儀ニ付、天皇陛下午後七時四十分、皇太后陛下午後七時三十分、公式鹵簿ニテ宮城御出門、新宿御苑葬場殿ヘ行幸啓アラセラルヘキ旨、仰出サレタリ。御道筋左ノ如シ。

天皇陛下宮城葬場殿間御道筋

半藏門ヨリ麴町通四谷通ヲ經テ、新宿一丁目左ヘ、新宿御苑甲門ヲ入リ便殿ヘ。

葬場殿赤坂離宮間御道筋

新宿御苑甲門ヲ出テ、右ヘ四谷通四谷見附左ヘ赤坂離宮正門ヘ。

皇太后宮宮城北御車寄葬場殿間御道筋

半藏門ヲ出テ、麴町通四谷通ヲ經テ新宿一丁目左ヘ、新宿御苑甲門ヲ入リ便殿ヘ。

大喪儀

大喪儀ハ昭和二年二月七日午後五時二十五分、靈柩殯宮ヨリ出御、御車寄ニ於テ轜車ニ遷御、同六時御出門、同八時三十分葬場殿著御、斂葬ノ儀中葬場殿ノ儀行ハセラレ、同八日午前零時十五分新宿御苑假驛ヨリ靈柩車ニ乘御、御發車アラセラレ、同一時三十五分、東淺川假驛ニ著御、葱華輦ニ遷御ノ上、同二時十五分陵所ニ進御、同二時四十五分陵所外陣ニ著御、同六時四十分斂葬ノ儀中、陵所ノ儀行ハセラレタリ。

葬場殿ノ儀ニ於ケル　天皇陛下ノ御誄、內閣總理大臣、宮內大臣ノ誄及祭官長ノ祭詞、左ノ如シ。

御誄

御名敬ミテ
皇考ノ神靈ニ白ス恭シク惟ルニ
皇考位ニ在シマスコト十有五年深仁厚澤人心ヲ感孚シタマヘリ一朝不豫久キニ彌リテ瘳エタマハス其ノ大漸ヲ傳フルニ當リテハ遠近爭ヒテ神祇ニ禱リ其ノ大行聞クニ及ヒテハ億兆考妣ヲ喪フカ如シ嗟予小子正ニ諒闇ニ在リ梓宮ヲ拜シテ音容ヲ想ヒ殯宮ニ候シテ涕淚ヲ灑ク玆ニ大喪ノ儀ヲ行ヒ哭イテ靈柩ヲ送リマツラントス今ニ感シ昔ヲ懷ヒ哀慕何ソ已マン嗚呼哀イ哉

內閣總理大臣ノ誄

內閣總理大臣從三位勳一等臣若槻禮次郎泣血頓首謹ミ白ウス天寒ク地凍リ神人俱ニ戚フ　靈轜寢ヲ出テサセラレ鹵簿蹕ヲ警メ　聖葬ノ殿庭幽ニ開キ　大喪ノ儀禮嚴ニ行ハセラ

レ諸奠咸ナ陳ネ郡邦畢ク到ル伏シテ惟ミルニ
大正天皇　神授叡明德輝日ノ如シ不世出ノ　英主ニ繼キテ
新局面ノ大勢ニ應シ創業ノ前烈ヲ承ケテ守成ノ　宏謨ヲ定
メ同盟ノ義ニ仗リテ西歐ノ戰役ニ加ハリ重鎭ノ衝ニ當リテ
東亞ノ康寧ヲ保チ列國ノ命議ニハ世界ノ和平ニ參贊シ海洋
ノ會商ニハ國際ノ爭意ヲ融解シ夙ニ勤儉ヲ奬メテ民富ヲ豐
阜ニシ更ニ憲制ヲ釐メテ選擧ヲ普通ナラシメ信睦ノ交ハ汎
ク友邦ヲ諧ヘ仁慈ノ澤ハ均シク黎庶ニ浹シ中外倚賴シ　皇
運愈隆ナリシヲ如何ソ不豫ニアラセラレ一朝大漸アラセタ
マハムトハ率土驚怛シ偏ニ　萬壽ヲ禱リタリシニ昊天弔マ
ス　龍馭陟方アラセラレ蒼生福寡ク我恃怙ヲ喪フ今乃　靈
柩ハ齋苑ニ御シ爰ニ將ニ　仙駕都門ヲ發セサセラレムトス
輦路　脩長ニシテ玄宮ハ寥曠ナリ永ケ進謁ノ再ヒシ難キヲ
傷ミ空シク追念ノ限リ無キヲ懷ク畏悚悲惋肅ミテ百僚臣民
ニ代リ咫尺辭ヲ獻ケ恭シク敬悼ノ微忱ヲ奉シタテマツル仰
キ冀ハクハ
明明ノ　威靈幸ニ　昭鑒ヲ垂レタマヒ臣等切切ノ至衷ヲ矜
マサセラレムコトヲ臣禮次郎泣血頓首謹ミ白ウス

宮內大臣ノ誄

宮內大臣從二位勳一等臣一木喜德郎謹ミテ
大正天皇靈轜ノ御前ニ言ス恭ク惟ルニ
天皇道ハ元良ヲ體セラレ夙ニ民瘼ヲ省方ニ問ヒタマヒ志ヲ
繼述ニ存セラレ汎ク帝德ヲ率土ニ敷キタマヘリ明治ノ武功
ヲ繼カサセラレ皇威ヲ海外ニ奮ヒタマヒ大正ノ文化ヲ宣ヘ
サセラレ國運ヲ世界ニ弘メマフ正ニ國事多端ノ常ニ非サル
ニ當リ遂ニ聖體違和ノ久キニ彌ルヲ致ス億兆ノ誠敬ヲ捧ケ

上下ノ神祇ニ禱リマツリシモ昊天弔マス此ノ大喪ヲ降セリ
臣喜德郎乏キヲ宮內大臣ニ承ケ天威ニ咫尺シテ辱ク德音ヲ
賜ハリ大命ヲ出納シテ叨リニ寵光ヲ荷フ遇ニ感スルノ年ア
ルヲ念ヒ恩ニ報フルノ日ナキヲ歎ス去歲ノ夏湘南ノ幸竊ニ
謂ラク海甸ノ乘輿重ネテ回鑾ヲ迎ヘマツラント料ラサリキ
海鄕ノ別殿遽ニ晏駕ヲ傳ヘマツラントハ宸廷朝ヲ廢セラレ
靈櫬闕ニ還リタマヒ殯宮ノ燈燭ニ對シマツリテハ恍惚トシ
テ夢寐カト疑ヒ梓宮ノ惟幄ヲ望ミマツリテハ髣髴トシテ音
容ヲ拜シマツル玆ニ靈轜ニ供奉シ敬ミテ葬殿ニ仰承シマツ
ル仙馭ノ駐ムヘカラサルヲ悲ミ天路ノ極ムヘカラサルヲ傷
ム淚ヲ斬衰ニ灑キ痛ヲ哀誄ニ陳フ今昔ニ俯仰シテ思慕感念
ノ至ニ任フルナシ臣喜德郎稽首謹ミテ奏ス。

祭官長ノ祭詞

挂卷母恐伎
大正天皇乃大御柩乃大前爾祭官長海軍大佐正四位勳三等功五
級公爵一條實孝恐美恐美母白左久大前波母夙久與利大御心乎大伎正伎道爾
寄世給比御代乎知食志氏利波與
明治天皇乃維新乃宏謨乎繼伎弘米給波止牟深久思保志食志給比志賀大御稜
威六合爾照利徹利立騷具阿多浪何時志加和古氏美四海皆兄弟止睦毘親
忠美大御惠四方八方乎潤志荒爾行久人心漸次爾靜萬利氏御門爾止神止仰伎
御親止慕比奉利奴斯久大御光至良奴隈無伎乃美加波
天皇乎始米奉利皇子等繼々爾生禮坐志乎以氏萬世一系乃皇統乃大
御榮百世五百世爾母著志母畏志止畏久尊母止尊志是乎以氏臣止云臣民止
云民千歲母彌若江爾若江坐々左牟事乎志思比懸氣奉爾利志大政乎總攬禰給
布事十年爾志氏由久利奈久母玉體常奈良世給波受氏二荒乃山沼津乃里爾母行幸
坐々志賀去年乃八月與利葉山乃御用邸爾御惱乎養波世給布事止成利奴伊知

速久癒世江左給比氏疾久還利坐々世止祈利奉氏有爾程爾十二月乃中旬俄加爾
御病重良世給比奴大朝廷乃内波白須母畏志八千萬乃大御多加良身母多
奈知良受心乎碎伎身乎致志天地乃神爾祈比請美奉利志母彌篤志禮爾篤志禮給比氏其
乃月乃二十日餘利五日止云布日乃曉世乎常夜止爲志氏登遐利坐々志奴悲
志止母悲志久惜志止母惜志伎極美爾奈母故嘆伎惑比々津葉山乃假乃御座所與利宮城爾移
志奉利殯宮爾坐世奉氏日波志米良爾世波須賀良爾或波白紵乃御簾乃
御前爾志自麻比或波御濠乃御垣乃下爾母止保利氏悼美奉利偲備奉氏來
經往久月日母左多加奈良曾受有利氣然波有禮母杼現世乃慣習止横山乃里
乃岡乃上爾玄宮築伎奉氏斂米奉良世給波止久今日乃此乃日大喪儀仕奉良世
給波止牟爲氏今志靈轜乎此乃葬場殿爾駐米奉氏宇豆乃御幣帛奉利御
食御酒乎始米種々乃物乎置足氏波志慎敬比仕奉良志米給布事乎平良久氣安
良氏久氣聞食氏志
聖上乃大御親御誄乎告良世給比氏大前乎治米奉良世給比　皇后宮乃昌子内
親王乎御名代止氏止志御玉串捧氣奉良志米給比　皇太后宮乃大御親御玉
串捧氣奉良世給比氏拜賀美奉良世給比皇族王族公族又各國乃大御使乎始米
宇古那波禮留諸人乃阿布奈阿布奈御訣告氣奉留狀乎神奈賀良見
曾那波志給倍止恐美恐美母白顏

第二節　大喪諸儀

曩ニ昭和二年一月七日ノ官報ヲ以テ、大喪諸儀期日、左ノ通リ公表セラル。

期日

一月三日　陵所地鎭祭ノ儀
一月五日　殯宮移御ノ儀
同　日　槨殿祓除ノ儀

一月六日ヨリ二月六日迄　殯宮日供ノ儀
一月六日　殯宮移御後一日祭ノ儀
一月十三日　殯宮二十日祭ノ儀
一月十七日　斂葬前殯宮拜禮ノ儀
一月二十日　追號奉告ノ儀
一月二十三日　殯宮三十日祭ノ儀
二月二日　殯宮四十日祭ノ儀
二月六日　陵所祓除ノ儀
二月七日　靈代奉安ノ儀
同　日　斂葬當日殯宮祭ノ儀
同　日　轜車發引ノ儀
同　日　斂葬ノ儀中葬場殿ノ儀
二月八日同　陵所ノ儀
二月八日ヨリ十二月二十四日迄　權殿日供ノ儀
二月九日ヨリ十二月二十四日迄　山陵日供ノ儀
二月九日　斂葬後一日權殿祭ノ儀
同　日　斂葬後一日山陵祭ノ儀
二月十二日　權殿五十日祭ノ儀
同　日　山陵五十日祭ノ儀
二月十五日　倚廬殿ノ祭
四月三日　權殿百日祭ノ儀
同　日　山陵百日祭ノ儀

來ル二月七・八日大喪儀ノ節參列者ニ對シ、特ニ思召ヲ以テ、左ノ通外套其他著用ノ儀差許サル。

一大禮服著用ノ者ハ制式ノ外套又ハ黑色マント

一正裝著用ノ者ハ制式ノ外套
一通常禮服著用ノ者ハ黑色又ハ之ニ類似色ノ外套
一女子通常服著用ノ者ハ外套及襟卷
追テ正裝著用以外ノ者ハ雨雪ノ節傘ヲ使用スルモ差支ナシ

內輦車發引ノ儀、斂葬ノ儀(葬場殿ノ儀、陵所之儀)次第左之如シ。

(昭和二年一月廿日官報號外)

二月七日午後五時、大勳位、親任官、前官禮遇、貴族院議長、衆議院議長、勳一等旭日桐花大綬章、功一級、親任官待遇、公爵、從一位、勳一等、高等官一等、貴族院副議長、衆議院副議長、麝香間祇候、侯爵、正二位、高等官二等、功二級、錦鶏間祇候、勅任待遇、神佛各宗派管長、伯爵、從三位、勳二等、子爵、正三位、從三位、功三級、勳三等、男爵、正四位、貴族院議員、高等官三等、同四等、同五等及該等ノ待遇ヲ享クル者、道府縣會議長、東京市長、東京市會議長、朝集所ニ參集ス。

但シ服裝大禮服正裝服制ナキ者ハ、通常禮服(喪章ヲ附ス)、神佛各宗派管長ハ之ニ相當スル服、關係諸員亦同シ。

同五時三十分諸員殯宮前ノ御路ニ臚列ス。

次ニ輦車ヲ御車寄ニ羣ス(大喪使高等官奉仕)

次ニ靈柩殯宮ヨリ出御(大正天皇側近奉仕ノ高等官(衣冠單、帶劍、藁沓、素服ヲ加フ)御綿ヲ執ル、同高等官左右各一人脂燭ヲ秉ル)

式部長官(衣冠單、帶劍、藁沓、素服ヲ加ヘ左手ニ桐杖ヲ執ル)宮內大臣(同上)前行シ大正天皇側近奉仕ノ高等官(同上、內一人御劍ヲ奉ス)及大正天皇ノ親族タル華族總代御後ニ候ス

次ニ靈柩ヲ輦車ニ奉遷ス(大喪使高等官奉仕)

御劍ヲ案(白木)上ニ安ク(大正天皇側近奉仕ノ高等官奉仕)

是ヨリ先キ案ヲ靈柩ノ首位ニ安ク

脂燭ノ火ヲ松明ニ移ス(同上)

但シ移シ訖テ松明ヲ內舍人ニ授ク

午後六時靈輦進御

此ノ時道樂ヲ始ム

鹵簿左ノ如シ

警部左右各三人
警視一人
警部左右各三人

陸海軍儀仗兵

松明一對左右ニ之ヲ乘ル、仕人奉仕、鈍色雜色、亂緒藁沓、以下之ニ倣フ

大喪使判任官左右各一人鈍色布衣、藁沓、以下之ニ倣フ

大喪使高等官一人衣冠、單、帶劍、藁沓、以下之ニ倣フ

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人

松明一對

內舍人左右各一人鈍色闕腋、藁沓、以下之ニ倣フ

鼓二對左右ニ之ヲ執ル、仕人奉仕、鈍色布杉、亂緒藁沓

鉦二對同上

松明一對

內舍人左右各一人

黃旛白旛各五旒左右交互ニ之ヲ執ル、仕人奉仕、鈍色布杉、亂緒藁沓

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人

松明一對

內舍人左右各一人

胡籙五對鼓ニ同シ

弓五對同上

松明一對

內舍人左右各一人

楯五對鼓ニ同シ

桙五對同上

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人

內舍人左右各一人

日像纛旛月像纛旛各一旒左右ニ之ヲ執ル、舍人奉仕、鈍色闕腋、藁沓

松明一對

内舍人左右各一人

御物櫃一架前後ニ之ヲ舁ク、舍人奉仕、鈍色闕腋、藁沓

吳床雨皮鼓ニ同シ、以下之ニ倣フ之ニ副フ

御服櫃一架御物櫃ニ同シ

吳床雨皮之ニ副フ

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人

松明一對

大眞榊一對鼓ニ同シ

祭官補左右各一人鈍色布衣、藁沓、以下之ニ倣フ

祭官一人衣冠單、藁沓、以下之ニ倣フ

御饌櫃一架御物櫃ニ同シ

吳床雨皮之ニ副フ

松明一對

祭官補左右各一人

祭官一人

御幣櫃一架御物櫃ニ同シ

吳床雨皮之ニ副フ

松明一對

祭官補左右各一人

祭官一人

松明一對

祭官補左右各一人

祭官一人

松明一對

祭官補左右各一人

祭官一人

松明一對

祭官補左右各一人
祭官副長（衣冠單、藁沓）
松明一對
祭官補左右各一人
祭官左右各一人
祭官長（祭官副長ニ同シ）
松明一對
樂師左右各六人（鈍色布衣、藁沓、以下之ニ倣フ）
樂長（衣冠單、藁沓）
松明一對（仕人奉仕、橡雜色、亂緒藁沓、以下之ニ倣フ）
宮內判任官左右各一人（橡布衣、藁沓、以下之ニ倣フ）
諸陵頭（衣冠單、帶劍藁沓、素服ヲ加ヘ左手ニ桐杖ヲ執ル、以下鹵簿ニ平列セル宮內高等官ノ服裝ニ付別ニ分注ヲ施ササルモノハ皆之ニ倣フ）
松明一對
宮內判任官左右各一人
式部長官

松明一對
宮內判任官左右各一人
宮內大臣
松明三對（內舍人奉仕、橡闕腋、藁沓）
靈轜
牛飼長一人（橡布杉、平禮、佩刀、亂緒藁沓）牛飼八人（橡布杉、平禮、亂緒藁沓）御車副二十人（橡布杉、冠細纓、亂緒藁沓）副牛二頭（牛衣白色平絹、組紐白色絲）本牛二頭（同上）陸海軍將校左右各十四人（正裝（喪章ヲ附ス））大正天皇側近奉仕ノ高等官左右各一人（松明ヲ乘ル、衣冠單、帶劍、藁沓、素服ヲ加フ）同上左右各四人（轜側ニ侍ス、衣冠單、劍帶、藁沓、素服ヲ加フ）同上一人（御挿鞋ヲ執ル、衣冠單、帶劍、藁沓、素服ヲ加フ）密邇奉仕シ榻棧（左右ニ之ヲ執ル、奉仕者橡布杉、亂緒藁沓）雨皮掛竿（同上之ニ副フ）
主馬頭
宮內判任官左右各一人
松明一對
大正天皇側近奉仕ノ高等官（武官ハ正裝（喪章ヲ附ス））
松明一對（仕人奉仕、殿部職服制式第三號甲種（喪章ヲ附ス）以下之ニ倣フ）

近衛將校左右各一人

松明一對（内舍人奉仕、内舍人職服制式第一號甲種（喪章ヲ附ス））

天皇御名代（正裝（喪章ヲ附ス））

宮内高等官二人皇族附武官（後ニ候ス）

近衛將校左右各一人

松明一對（舍人奉仕、舍人職服制式第二號甲種（喪章ヲ附ス））

親王王族公族

皇族王族公族附武官後ニ候ス

松明一對

大正天皇ノ親族タル華族

松明一對

内大臣

松明一對

内閣總理大臣

松明一對

樞密院議長

松明一對

大喪使長官

大喪使高等官

松明一對

奉送諸員

松明一對

陸海軍儀仗兵

警部左右各二人

警視一人

警部左右各二人

附記

本儀中祭官以外ノ者ノ服裝衣冠單ハ冠無紋卷纓、袍黑橡布、單奴袴鈍色布、扇鈍色黑骨トス又鹵簿ニ屬スル者ハ徒步トシ男子ニ限ル且靈轜ノ前列ハ左ヲ上トシ後列ハ右ヲ上トス以下之ニ倣フ。

本儀ニ於ケル參集諸員ハ葬場殿ニ先著スルコトヲ妨ケス。

斂葬ノ儀

葬場殿ノ儀

二月七日午後四時葬場殿ヲ鋪設ス

其ノ儀左右後三面ニ壁代（白色帛）ヲ作リ前面ニ御簾（緣白色帛、鉤紐白絲）ヲ垂レ其ノ半ヲ搴ク

同七時、大勳位、親任官、前官禮遇、貴族院議長、衆議院議長、勳一等旭日桐花大綬章、功一級、親任官待遇、公爵、從一位勳一等、高等官一等、貴族院副議長、衆議院副議長、麝香間祇候、侯爵、正二位高等官二等、功二級、錦鷄間祇候、勅任待遇、伯爵、從二位勳二等、子爵、正三位、從三位、功三級勳三等、男爵、正四位、從四位ノ夫人、功四級、勳四等、正五位、從五位、功五級、勳五等、正六位、從六位、勳六等、高等官六等、同七等、同八等及該等ノ待遇ヲ享クル者、高等官九等、奏任待遇、門跡、寺院住職、東京府會副議長、東京府市部會議長同副議長、東京府郡部會議長同副議長、東京府參事會員、各市長、各市會議長、東京市會副議長、東京市參事會員、東京市參與、助役、收入役、局長、東京市各區長、東京市各區會議長、東京商業會議所會頭、帝國農會會長、日本醫師會會長、日本藥劑師會會長、日本齒科醫師會會長、特別ノ法令ヲ以テ設立セラレタル銀行會社ノ總裁、頭取又ハ社長、東京手形交換所代表者一人、東京所在辯護士會會長、帝國水產會會長、產業組合中央會理事一人、產業組合中央金庫理事長、辯理士會理事一人、蠶絲業同業組合中央會會長、茶業組合中央會議所會頭、中等學校程度以上ノ私立學校長、褒章受領者、宮內判任官總代各部局一人、內閣、樞密院、各省、會計檢查院、行政裁判所、警視廳、東京府、貴族院事務局、衆議院事務局ノ判任官總代各一人、千駄ヶ谷町長、葉山町長、葉山警察署長、道各府縣町村長總代各一人、道各府縣學校長（中等學校程度以上ノモノヲ除ク）總代各一人、朝鮮在住人總代各道二人、臺灣在住人總代各州廳二人、樺太在住人總代二人、關東州在住人總代二人、南洋群島在住人總代一人、各國交際官並夫人、東京・橫濱駐在各國領事並夫人、准勅任雇外國人並夫人、勳三等以上ノ外國人並夫人、勳四等、勳五等、勳六等ノ外國人、准奏任雇外國人葬場殿ニ先著シ朝集所ニ參集ス

但シ服裝男子ハ大禮服正裝服制ナキ者ハ通常禮服（褒章ヲ附ス）女子ハ通常服又

ハ袿袴喪服關係諸員亦同シ

次ニ親王妃、王妃、王族、公族休所ニ參著ス

次ニ天皇御正裝(喪章ヲ附ス)皇后御通常服(喪服)皇太后御通常服(喪服)便殿ニ著御

次ニ諸員葬場殿前ノ御路ニ臚列奉迎ス

次ニ靈轜前列ノ陸海軍儀仗兵正門外ニ堵列ス後列ノ陸海軍儀仗兵亦之ニ倣フ

次ニ靈轜前列ノ大喪使高等官幄舍周圍ニ黑橡布幔ヲ曳クノ前ニ立ツ

鼓鉦黃旛白旛ヲ荒垣黑橡布幔ヲ曳ク第一鳥居內左右兩傍ニ布列シ胡籙弓楯桙ヲ第二鳥居內左右兩傍ニ布列ス

日像纛旛月像纛旛御物櫃御服櫃ヲ葬場殿前面ノ左右兩傍ニ布列シ大眞榊ヲ樹ツ

御饌櫃御幣櫃ヲ膳舍ニ舁入ル

祭官長祭官副長祭官幄舍ノ前ニ立ツ

樂師道樂ヲ奏シツヽ幄舍ノ前ニ立ツ

宮內大臣式部長官諸陵頭幄舍ノ前ニ立ツ

次ニ天皇皇后皇太后第二鳥居內ニ御奉迎

侍從長、侍從、侍從武官長、侍從武官、皇后宮大夫、皇太后宮大夫、女官御後ニ候シ親王妃、王妃、王族、公族供奉ス

次ニ靈轜ヲ幔門黑橡布幔並黑漆柱ヲ以テ之ヲ立ツノ內ニ停メ之ヲ閉ツ

次ニ靈轜後列ノ諸員幄舍ノ前ニ立ツ

次ニ天皇皇后皇太后便殿ニ入御

次ニ親王親王妃王王妃王族公族休所ニ入ル

次ニ靈轜ヲ葬場殿ニ奉安ス

大正天皇側近奉仕ノ高等官及轜側ノ陸海軍將校便宜ノ所ニ候ス

午後九時諸員著床

次ニ幔門ヲ開ク

次ニ天皇幄舍ニ出御御椅子ニ著御

式部次長前行シ侍從劍璽ヲ奉シ侍從長侍從侍從武官長侍從武官御後ニ候シ親王王王族公族供奉ス

次ニ皇后幄舍ニ出御同上

皇后宮大夫前行シ女官御後ニ候シ親王妃王妃王族公族供奉ス

次ニ皇太后幄舍ニ出御同上

皇太后宮大夫前行シ女官御後ニ候ス

次ニ御饌ヲ奠ス祭官副長祭官奉仕

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ幣物錦一卷、兩面一卷、五色綾各一卷、五色帛各一匹、五色淡帛各一匹、五色纈帛各一匹、薦纈帛一匹、白絁一匹、五色絲各一絇、柳筥ニ納メ齋芳纈纈帛ヲ以テ之ヲ裹ミ標帶二條ヲ以テ之ヲ結フ奠ス

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ祭官長祭詞ヲ奏ス

次ニ天皇御拜禮御誄ヲ奏ス

次ニ皇后皇太后御拜禮

次ニ親王親王妃王王妃王族公族拜禮

次ニ內閣總理大臣宮內大臣拜禮各誄ヲ奏ス

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物御饌ヲ撤ス祭官副長祭官奉仕

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ天皇皇后皇太后便殿ニ入御

供奉出御ノ時ノ如シ

次ニ幔門ヲ閉ツ

次ニ靈柩ヲ葱華輦ニ奉遷ス大喪使高等官奉仕

次ニ諸員御路ニ臚列奉送ス

次ニ幔門ヲ開ク

次ニ靈輦新宿御苑假驛ニ著御

次ニ幔門ヲ閉ツ

次ニ靈柩ヲ汽車ニ奉遷ス

次ニ幔門ヲ開ク

次ニ親王親王妃王王妃王族公族新宿御苑假驛ニ參進

次ニ天皇皇后皇太后新宿御苑假驛ニ出御

次ニ靈柩發輌

天皇皇后皇太后御奉送

親王親王妃王王妃王族公族奉送

二月八日午前一時三十五分東淺川假驛ニ著御

大勳位元帥、國務大臣總代各一人、前官禮遇總代一人、樞密院副議長、樞密顧問官總代一人、陸軍大將、海軍大將總代各一人、親任官總代一人、貴族院議長副議長ノ內一人、衆議院議長副議長ノ內一人、親任官待遇總代一人、近衞師團長、第一師團長、横須賀鎮守府司令長官、有爵者總代各爵一人、朝鮮貴族總代一人、東京府知事、內閣、樞密院、各省、會計檢査院、行政裁判所、警視廳、東京府、貴族院事務局、衆議院事務局ノ勅任官總代各一人、同奏任官總代各一人、宮內勅任官總代二人、同奏任官總代二人、鹵簿內奉送ノ位置ニ就ク

次ニ幔ヲ曳ク

次ニ靈柩ヲ葱華輦ニ奉遷ス（大喪使高等官奉仕）

次ニ幔ヲ除ク

次ニ靈輦陵所ニ進御

此ノ時道樂ヲ始ム

鹵簿左ノ如シ（奉仕者及諸員ノ服裝ハ鹵簿ノ次第ニ從ヒ轎車發引ノ儀ニ於テ各別ニ注記シタルモノニ同シ）

警部左右各一人

警視一人

警部左右各一人

陸海軍儀仗兵

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人

松明一對

內舍人左右各一人

鼓一對

鉦一對

松明一對

內舍人左右各一人

黃旛白旛各二旒

松明一對

大喪使判任官左右各一人

大喪使高等官一人
松明一對
内舍人左右各一人
胡籙一對
弓一對
松明一對
内舍人左右各一人
楯一對
桙一對
松明一對
内舍人左右各一人
日像纛旛月像纛旛各一旒
御物櫃一架
　吳床兩皮之ニ副フ
御服櫃一架

　吳床兩皮之ニ副フ
松明一對
大喪使判任官左右各一人
大喪使高等官一人
松明一對
大眞榊一對
祭官補左右各一人
御饌櫃一架
　吳床兩皮之ニ副フ
祭官補左右各一人
御幣櫃一架
　吳床兩皮之ニ副フ
松明一對
祭官補左右各一人
祭官一人

松明一對
祭官補左右各一人
祭官一人
松明一對
祭官補左右各一人
祭官副長
松明一對
祭官補左右各一人
祭官長
松明一對
樂師左右各六人
樂長
松明一對
宮內判任官左右各一人
諸陵頭

松明一對
宮內判任官左右各一人
式部長官
松明一對
宮內判任官左右各一人
宮內大臣
松明一對（內舍人奉仕）
靈輦
鴛輿丁百五人（橡布衫、冠、細纓、緌、亂緒、藁沓、鈍色、禰襠ヲ加フ）陸海軍將校左右各四人、大正天皇側近奉仕ノ高等官左右各一人松明ヲ乘ル、同上左右各四人輦側ニ侍ス、同上一人御挿鞋ヲ執ル、吳床雨皮（左右ニ之ヲ執ル、奉仕者橡布衫亂緒藁沓）之ニ副フ
松明一對
大正天皇側近奉仕ノ高等官
松明一對
近衞將校左右各一人

松明一對（内舍人奉仕）
天皇御名代
宮内高等官二人皇族附武官後ニ候ス
近衛將校左右各一人
松明一對
親王王王族公族
皇族王族公族附武官後ニ候ス
松明一對
大正天皇ノ親族タル華族
松明一對
内大臣
内閣總理大臣
樞密院議長
松明一對
大喪使長官
大喪使高等官
松明一對
奉送諸員
松明一對
陸海軍儀仗兵
警部左右各一人
警視一人
警部左右各一人

陵所ノ儀

二月八日午前一時陵所ヲ鋪設ス
次ニ親王妃王妃王族公族休所ニ參著ス
次ニ皇后御名代皇太后御名代休所ニ參著ス
次ニ淺川横山元八王子各村長祭場殿前ノ御路ニ臚列奉迎ス
次ニ靈輦前列ノ陸海軍儀仗兵正門外ニ堵列ス（後列ノ陸海軍儀仗兵亦之ニ倣フ）

次ニ靈輦前列ノ大喪使高等官幄舍（周圍ニ黑橡布幔ヲ曳ク）ノ前ニ立ツ

鼓鉦黃旛白旛胡籙弓楯桙日像纛旛月像纛旛ヲ祭場殿前面ノ左右兩傍ニ布列シ大眞榊ヲ樹ツ

御物櫃御服櫃ヲ玄宮前便宜ノ所ニ安ク

御饌御幣櫃ヲ膳舍ニ舁入ル

祭官長祭官副長祭官幄舍ノ前ニ立ツ

樂師道樂ヲ奏シツヽ幄舍ノ前ニ立ツ

宮內大臣式部長官諸陵頭幄舍ノ前ニ立ツ

次ニ親王妃王妃王族公族祭場殿前便宜ノ所ニ於テ奉迎

次ニ皇后御名代皇太后御名代祭場殿前便宜ノ所ニ於テ奉迎

御用取扱後ニ候ス

次ニ靈輦祭場殿ニ著御

大正天皇側近奉仕ノ高等官及輦側ノ陸海軍將校便宜ノ所ニ候ス

次ニ靈輦後列ノ諸員幄舍ノ前ニ立ツ

次ニ幔門（黑橡布幔竝黑漆柱ヲ以テ之ヲ立ツ）ヲ閉ツ

次ニ天皇御名代皇后御名代皇太后御名代休所ニ退下

次ニ親王親王妃王王妃王族公族休所ニ入ル

次ニ靈柩ヲ玄宮ニ奉遷シ御外槨（石槨ニ劍ム）（大喪使高等官奉仕）

是ヨリ先キ玄宮及祭場殿ヲ鋪設ス其ノ儀玄宮ノ中央ニ御外槨ヲ安キ祭場殿ニ御幌（白色帛紐白色）竝御簾（白色帛緣鈎紐白紵）ヲ懸ケ左右ニ御燈（白木菊燈臺）ヲ安キ火ヲ點ス

次ニ御服櫃御物櫃ヲ玄宮內ニ布列シ御挿鞋ヲ御外槨ノ傍ニ安ク

午前五時諸員幄舍ニ著床ス

次ニ幔門ヲ開ク

次ニ親王親王妃王王妃王族公族參進幄舍ニ著床ス

次ニ天皇御名代參進幄舍ニ著床ス

式部次長前行シ宮內高等官二人皇族附武官後ニ候ス

次ニ皇后御名代參進幄舍ニ著床ス

式部官前行シ御用取扱後ニ候ス

次ニ皇太后御名代參進幄舍ニ著床ス

式部官前行シ御用取扱後ニ候ス

次ニ御饌ヲ奠ス（祭官副長祭官奉仕）

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ幣物（錦一卷、五色綾各一卷、五色帛各一匹、五色淡帛各一匹、五色纈帛各一匹、五色絲各一絇、柳筥ニ納メ蘇芳纈纈帛ヲ以テ之ヲ裹ミ縹帶二條ヲ以テ之ヲ結フ）ヲ奠ス（同上）

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ祭官長祭詞ヲ奏ス

次ニ天皇御名代拜禮御告文ヲ奏ス訖テ退下

扈從參進ノ時ノ如シ

次ニ皇后御名代拜禮訖テ退下

扈從參進ノ時ノ如シ

次ニ皇太后御名代拜禮訖テ退下

扈從參進ノ時ノ如シ

次ニ親王親王妃王王妃王族公族拜禮訖テ退下

次ニ諸員拜禮

次ニ幣物御饌ヲ撤ス（祭官副長祭官奉仕）

此ノ間誄歌ヲ奏ス

次ニ玄宮ノ門ヲ閉ツ（諸陵頭奉仕）

次ニ陵誌ヲ埋メ土ヲ覆フ（同上）

次ニ祭場殿ノ御幌御簾ヲ垂ル（同上）

次ニ各退下

第三節　奉送ニ關スル諸心得

其一　參列諸員ノ範圍

二月七日在京スル左記ノ者ニ對シ、殯宮葬場殿間鹵簿內奉送ヲ命セラル但シ都合ニ依リ葬場殿ニ先著スルコトヲ妨ケス。

一大勳位

一親任官

一前官禮遇

一貴族院議長、衆議院議長

一勳一等旭日桐花大綬章
一功一級
一親任官待遇
一公爵
一從一位
一勳一等
一高等官一等
一貴族院副議長、衆議院副議長
一麝香間祗候
一侯爵
一正二位
一高等官二等
一功二級
一錦鷄間祗候
一勅任待遇

一神佛各宗派管長
一伯爵
一從二位
一勳二等
一子爵
一正三位
一從三位
一功三級
一勳三等
一男爵
一正四位
一從四位
一貴族院議員、衆議院議員
一高等官三等、同四等同五等及該等ノ待遇ヲ享クル者
一道府縣會議長

一東京市長
一東京市會議長

二月七日在京スル左記ノ者ニ對シ、葬場殿ニ先著ヲ命セラル。

一宮中席次中大勳位乃至從四位ノ者ノ夫人
一功四級
一勳四等
一正五位
一從五位
一功五級
一勳五等
一正六位
一從六位
一勳六等
一高等官六等、同七等、同八等及該等ノ待遇ヲ享クル者
一高等官九等

一奏任待遇
一門跡寺院住職
一東京府會副議長
一東京府市部會議長、同副議長
一東京府郡部會議長、同副議長
一東京府參事會員
一各市長
一各市會議長
一東京市會副議長
一東京市參事會員
一東京市參與、助役、收入役、局長
一東京市各區長
一東京市各區會議長
一東京商業會議所會頭
一帝國農會會長

一日本醫師會會長
一日本藥劑師會會長
一日本齒科醫師會會長
一特別ノ法令ヲ以テ設立セラレタル銀行會社ノ總裁頭取又ハ社長
一東京手形交換所代表者一人
一東京所在辯護士會會長
一帝國水產會會長
一產業組合中央會理事一人
一產業組合中央金庫理事長
一辨理士會理事一人
一蠶絲業同業組合中央會會長
一茶業組合中央會議所會頭
一中等學校程度以上ノ私立學校長
一褒章受領者
一宮內判任官總代各部局一人

一內閣樞密院、各省、會計檢查院、行政裁判所、警視廳、東京府、貴族院事務局、衆議院事務局ノ判任官總代各一人
一千駄ヶ谷町長
一葉山町長
一葉山警察署長
一道各府縣町村長總代各一人
一道各府縣學校長（中等學校程度以上ノモノヲ除ク）總代各一人
一朝鮮在住人總代各道二人
一臺灣在住人總代各州廳二人
一樺太在住人總代二人
一關東州在住人總代二人
一南洋群島在住人總代一人

二月七日左記ノ者ニ對シ、葬場殿ニ先著差許サル。

一准勅任雇外國人竝夫人
一勳三等以上ノ外國人竝夫人

一勳四等勳五等勳六等外國人
一准奏任雇外國人

二月八日左記ノ者ニ對シ、東淺川假驛陵所間、鹵簿內奉送竝陵所ニ參集ヲ命セラル。

一大勳位
一元帥國務大臣總代各一人
一前官禮遇總代一人
一樞密院副議長樞密顧問官總代一人
一陸軍大將海軍大將總代各一人
一親任官總代一人
一貴族院議長、副議長ノ內一人、衆議院議長副議長ノ內一人
一親任官待遇總代一人
一近衞師團長第一師團長橫須賀鎭守府司令長官
一有爵者總代各爵一人
一朝鮮貴族總代一人
一東京府知事
一內閣、樞密院、各省、會計檢査院、行政裁判所警視廳、東京府、貴族院事務局、衆議院事務局ノ勅任官總代各一人同奏任官總代各一人
一宮內勅任官總代二人同奏任官總代二人

二月八日左記ノ者ニ對シ、陵所ニ參集ヲ命セラル。

一當日用務ヲ以テ陵所ニ出張セル高等官同待遇
一淺川橫山元八王子各村長

其二　服裝ニ關スル心得

男子

○官吏ハ大禮服、正裝
但シ文官ノ廉ヲ以テ參列スル者ニシテ有爵者竝武官ハ其ノ大禮服、正裝ヲ著用スルコトヲ得。

○爵位ノ廉ヲ以テ參列スル者ハ其ノ大禮服
　但シ官吏ハ其ノ大禮服、正裝ヲ著用スルコトヲ得
○位階ノ廉ヲ以テ參列スル者ハ官吏ハ其ノ大禮服、正裝有爵者ハ其ノ大禮服
　其ノ他ノ者ハ非役有位大禮服
○勳章又ハ褒章ヲ有スル廉ヲ以テ參列スル者ハ官吏有爵者有位者ハ其ノ大
　禮服、正裝其ノ他ノ者ハ通常禮服（燕尾服シルクハツト）
○左記ノ廉ヲ以テ參列スル者ハ他ニ身位アルト否トニ拘ラス通常禮服（燕尾服シルクハツト）ヲ著用スルコトヲ得。
　貴衆兩院議長副議長議員（有爵者タルカ故ニ議員タル者ヲ除カ）、道府縣會議長、東京市長、東京市會議長並葬場殿ニ先著ヲ命セラレタル者ノ內東京府會副議長乃至南洋群島在住人總代（葉山警察署長除カ）及陵所ニ參集ヲ命セラレタル者ノ內淺川横山元八王子各村長
○神佛各宗派管長、門跡、寺院住職ハ大禮服ニ相當スル服
　女子
○通常服又ハ袿袴

注意
○大禮服及通常禮服ノ襟飾及手套ハ白色トス。
○大禮服、正裝及通常禮服ハ皇室喪服規程（明治四十四年宮內省告示第十一號）ノ定ムル所ニ從ヒ喪章ヲ附スルコト。
○女子ノ服裝ニ付通常服トアルハ皇室喪服規程女子喪服制式第一號ニ定ムル通常服ヲ謂ヒ袿袴トアルハ同規程女子喪服制式第二號及第三號ニ定ムル袿袴ヲ謂フ。
○勳章ヲ有スル者ハ本綬ヲ佩用スルコト。
○參列諸員ニ對シ特ニ思召ヲ以テ左ノ通外套其ノ他著用ノ儀差許サル。
　一大禮服著用ノ者ハ制式ノ外套又ハ黑色マントト
　一正裝著用ノ者ハ制式ノ外套
　一通常禮服著用ノ者ハ黑色又ハ之ニ類似色ノ外套
　一女子通常服著用ノ者ハ外套及襟卷
　追テ正裝著用以外ノ者ハ雨雪ノ節傘ヲ使用スルモ差支ナシ。

其三　殯宮葬場殿間鹵簿内奉送諸員心得

一參集時刻及場所

殯宮葬場殿間鹵簿内奉送諸員ハ午後五時迄ニ左記ノ所ニ參集スヘシ。

(イ)大勳位、親任官、前官禮遇、貴族院議長、衆議院議長、勳一等旭日桐花大綬章、功一級、親任官待遇公爵、從一位勳一等及大正天皇ノ親族タル華族ハ坂下門又ハ乾門ヲ入リ東車寄ヨリ參内宮殿東溜ノ間口ニ於テ豫メ交付サレタル參列員證ヲ差出シ同間ニ入ルコト(參列員證ニ關シテハ「第八」ヲ參照スヘシ)

(ロ)前記以外ノ鹵簿内奉送諸員ハ宮城正門外北側ニ設ケラレタル天幕受付ニ於テ參列資格ヲ記入シタル名刺燕尾服著用者ハ豫メ交付サレタル參列員證)ヲ差出シ天幕ニ入ルコト(參列員證ニ關シテハ「第八」ヲ參照スヘシ)

二鹵簿内參列

前記諸員ハ掛員ノ誘導ニ依リ所定ノ位置ニ臚列シ靈轜進御後鹵簿内ニ入ルコト。

三葬場殿到著ノ節心得

前記諸員葬場殿到著ノ節大勳位以下勳一等以上ハ第一休所ニ大正天皇ノ親族タル華族及東淺川假驛陸所間鹵簿内奉送ヲ命セラレタル諸員ハ第二休所ニ入リ他ノ諸員ハ幄舍ニ入ルコト但シ幄舍裏ニ設ケラレタル天幕ニ入リ湯茶ヲ喫スルコトヲ得ルモ成ルヘク速ニ幄舍内ノ位置ニ復スルコト。(幄舍内位置ニ就テハ「第五」ヲ參照スヘシ)

四其ノ他

宮城ニ參集セル諸員ハ總テ靈轜ニ扈從シテ葬場殿ニ至ルモノニシテ一旦宮城ニ至リ靈轜ヲ奉送シタル後葬場殿ニ先著スルコトヲ許サス。

鹵簿内ニ在リテ身體ニ故障ヲ生シタルトキハ掛員ニ申シ出ツルコト。

參集順路及車馬ニ關シテハ「第七」ヲ參照スヘシ。

其四　葬場殿先著諸員心得

一參入口及參集時刻

葬場殿ニ先著ノ諸員ハ午後七時迄ニ左記參入口ニ來著スヘシ。

(イ)自動車乘用ノ向

△大勳位、親任官、前官禮遇、貴族院議長、衆議院議長、勳一等旭日桐花大綬章、功一級、親任官待遇、公爵、從一位、勳一等、大正天皇ノ親族タル華族、及東淺川假驛陵所間鹵簿內奉送ヲ命セラレタル諸員ハ新宿一丁目門ヨリ參入ノ上掛員ノ指示ニ依リ下乘シ受付ニ於テ豫メ交付サレタル參列員證ヲ差出シ休所ニ入ルコト。(參列員證ニ關シテハ「第八」ヲ參照スヘシ)

△前記以外ノ諸員ハ千駄ヶ谷門內受付ニ於テ參列資格ヲ記入シタル名刺(各國領事及燕尾服著用者ハ豫メ交付サレタル參列員證)ヲ差出シ順路幄舍ニ入ルコト。(幄舍內位置ニ就キテハ「第五」ヲ參照スヘシ、參列員證ニ關シテハ「第八」ヲ參照スヘシ)

(ロ)馬車人力車乘用ノ向

千駄ヶ谷門又ハ新宿一丁目門ヨリ參入シ受付ニテ參列資格ヲ記入シタル名刺(各國領事及燕尾服著用者ハ豫メ交付サレタル參列員證)ヲ差出シ順路幄舍ニ入ルコト。(幄舍內位置ニ就キテハ「第五」ヲ參照スヘシ)

(ハ)徒步ノ向

千駄ヶ谷門又ハ新宿一丁目門ヨリ參入以下(ロ)ニ同シ。

二靈轜奉迎

靈轜著御ニ先チ掛員ノ指示ニ依リ幄舍前ニ臚列シ靈轜奉迎ノ上再ヒ幄舍ニ入ルコト。

三其ノ他

靈轜著御後ノ事ニ就キテハ「第五」ヲ參照スヘシ、參集順路及馬車ニ關シテハ「第七」ヲ參照スヘシ。

其五　葬場殿內心得

一著床位置ハ左ノ如シ

右

特派使節					
勳一等	大公使館員	東京濱濱駐在各國領事	正二位	侯爵	
從三位	正三位	勳四等	功四級	男爵	從三位
東京市會議長	東京市長	門跡寺院住職	其ノ他ノ諸員	奏任待遇	道府縣會議長

幄舎

特派大使

從一位
公爵
親任官待遇
勳一等旭日桐花大綬章
衆議院議長
貴族院議長
親任官
宮內大臣
內閣總理大臣

麝香間祗候
衆議院副議長
貴族院副官長
高等官一等

正三位
勳二等
從二位
伯爵
神佛各宗派管長
勅任待遇
錦鷄間祗候
功二級
高等官二等

高等官三等以上並該等ノ待遇ヲ享クル者
衆議院議員
貴族院議員

高等官六等以下ノ奏任官並該等ノ待遇ヲ享クル者
正五位以下從六位以上
勳四等以下勳六等以上
功四級功五級

左幄舎

皇族 王族 公族

大勳位
樞密院議長
元帥
各大臣
朝鮮總督
前官禮遇
供奉員

側近奉仕高等官
親族タル華族
轜側將校
近衞將校（御名代前後）
大喪使高等官
陵所ノ儀參列諸員
皇族王公族隨員

高等官一等
麝香間祗候
侯爵
正二位

高等官二等
功二級
錦鷄間祗候
勅任待遇
神佛各宗派管長
伯爵
從二位
勳二等
子爵
正三位
從三位
功三級
勳三等
男爵
正四位
從四位

貴族院議員
衆議院議員
高等官三等以下五等以上並該等ノ待遇ヲ享クル者
道府縣會議長

功四級功五級
勳四等以下勳六等以上
正五位以下從六位以上
高等官六等以下ノ奏任官並該等ノ待遇ヲ享クル者
奏任待遇
門跡寺院住職
其ノ他ノ諸員

二　御儀式中ノ心得

靈轜著御葬場殿ヲ鋪設シタル後休所ニ在リタル諸員ハ掛員ノ指示ニ依リ幄舎ニ就ク御儀ノ進行ニ伴ヒ幄舎內ニ設ケラレタル信號燈ヲ點スルニ依リ諸員ハ左記ノ通行動スルコト。

皇族王族公族及各國特派大使特派使節幄舎ニ著床
天皇皇后皇太后三陛下幄舎ニ出御
御饌幣物ヲ奠ス
祭官長祭詞ヲ奏ス
天皇皇后皇太后三陛下御拜禮
皇族王族公族及各國特派大使特派使節拜禮
內閣總理大臣宮內大臣各誄ヲ奏ス
諸員一齊拜禮

信號燈	諸員ノ行動
青	起立
赤	著床
青 赤	外套ヲ脱シ起立
赤 喇叭一聲	外套ヲ著シ著床

幣物御饌ヲ撤ス

天皇皇后皇太后三陛下入御　青

皇族王族公族及各國特派大使特派使節退下　赤

幔門ヲ閉ツ　起立

後靈輦出御ニ先チ掛員ノ指示ニ依リ諸員ハ幄舍前ニ臚列シ靈輦ヲ奉送スルコト。　著床

御儀式中諸員ハ猥リニ幄舍内ノ位置ヲ動クコトヲ得ス。

身體ニ故障ヲ生シタル者ハ掛員ニ申シ出ツルコト。

幄舍内ニ於テ喫烟スルコトヲ得ス。

三退出

靈輦進御ノ後掛員ノ指示ニ從ヒ順次退下ノ事

但シ勳一等以上ノ諸員ハ休所ニ入リ掛員ノ指示ヲ俟チ退下ノ事高等官一等以下ニシテ車馬乘用ノ向ハ正門ヲ通過シ指定ノ置場ニ至リ乘車ノコト

徒歩ノ者ハ正門又ハ新宿一丁目門ヨリ退下ノコト

但シ新宿一丁目門ハ三陛下還御皇族王族公族各殿下御退出迄通行スルコトヲ得ス

千駄ケ谷驛ヨリ電車ニ乘車スル者ハ靈柩列車及供奉列車發車迄驛内ニ入ルコトヲ得ス

其六　陵所ノ儀參列諸員心得

一汽車

東淺川假驛陵所間鹵簿内奉送ヲ命セラレタル諸員ハ葬場殿ノ儀終了後掛員ノ指示ニ依リ新宿御苑假驛ニ至リ供奉列車ニ乘車（乘車證ハ豫メ送附ス）ノコト東淺川假驛ニ著ノ上掛員ノ指示ニ依リ鹵簿ニ入リ靈輦ニ扈從ノコト

二陵所ノ儀御儀式中諸員心得

陵所ニ於テハ一切掛員ノ指示ヲ俟ツコト

三其ノ他

陵所ノ儀ニ參列セル諸員ハ歸京ニ際シ二月八日午前七時十五分東淺川假驛發ノ臨時列車ニ乘車スルコトヲ得(千駄ヶ谷驛著午前八時二十五分)

當日用務ヲ以テ陵所ニ出張セル高等官同待遇及淺川、横山、元八王子各村長ハ二月八日午前零時三十分迄ニ陵所ニ參集掛員ノ指示ニ依リテ休所ニ入リ靈輦ヲ奉迎シ掛員ノ指示ヲ俟ツコト

其七　參集順路及車馬ニ關スル心得

一參集順路

○宮城ヘノ參集順路(附葬場殿ニ廻送ノ空車順路)

(イ)大勳位以下勳一等以上及大正天皇ノ親族タル華族ニシテ坂下門ヨリ參入セントスル者ハ東京驛ヨリ海上ビルディング及郵船ビルディング間ヲ通過シ宮城外苑ニ通スル行幸道路又ハ大手門前濠ニ沿ヒ坂下門外巡査派出所前ヨリ坂下門ヘ、乾門ヨリ參入スル者ノ順路ハ隨意

(ロ)其他ノ諸員ハ東京驛ヨリ海上ビルディング及郵船ビルディング間ヲ通過シ宮城外苑ニ通スル行幸道路又ハ大手門前濠ニ沿ヒ坂下門外巡査派出所前左ニ宮城正門前(二重橋外)ヘ

(ハ)前記諸員ノ乘捨テタル空車ハ祝田町十字路ヲ左ニ大手門前又ハ行幸道路ヲ過クルコト、乾門ヲ出ルモノハ此限ニ非ス尚前記空車ニシテ葬場殿ニ至ルモノヽ內大勳位以下勳一等以上ノ分ハ午後七時迄若クハ午後九時ヨリ同十時三十分迄ノ間ニ於テ新宿一丁目門ヨリ參入ノコト(順路隨意但シ自動車以外ハ門外ニテ掛員ノ指示ニ依リ置場ニ至ルコト

其他ハ靈轜進御ノ御道筋ヲ避ケ午後九時三十分迄ニ次項(ロ)ニ記載ノ順路ヲ經テ葬場殿車置場ニ至ルコト

葬場殿ニ先著ノ向參集順路

(イ)大勳位以下勳一等以上及大正天皇ノ親族タル華族、東淺川假驛陵所間鹵簿內奉送ヲ命セラレタル諸員ハ午後七時迄ニ新宿一丁目門ヨリ參入ノコト(順路隨意)

(ロ)其ノ他ノ諸員ニシテ自動車乘用者中青山方面ヨリ參入ノ向ハ明治神宮表參道ヨリ原宿驛前ヲ經テ裏參道ニ出テ新宿方面ヨリ參入ノ向ハ市電角筈停留場前ヨリ新設道路ヲ經テ新宿貨物驛脇ヨリ裏參道ニ出テ共ニ

千駄ヶ谷驛附近ニ設ケタル降車場ニ至リテ下車、馬車人力車乘用ノ向ハ青山四丁目ヨリ近衞歩兵第四聯隊門前ヲ經テ日本青年館ノ前ニ出テ千駄ヶ谷八幡前ヲ右折德川公爵邸前ニテ下車孰レモ千駄ヶ谷門ヨリ參入ノコト、馬車人力車乘用ノ向ハ前記ノ外新宿一丁目門外ニテ下車同門ヨリ參入スルコトヲ得

(ハ)徒歩ノ向ハ新宿一丁目門又ハ千駄ヶ谷門ヨリ參入ノコト

注意

當日ハ混雜甚シカルヘキニ依リ成ルヘク時間ニ餘裕ヲ存シテ參集セラレタキコト葬場殿ニ先著ノ向其乘用車ヲ一旦返シ再ヒ之ヲ迎ヘニ出サルヽコトハ車馬整理上二重ノ混雜ヲ招クヘキニ依リ成ルヘク乘用車ハ其儘置場ニテ待タシメラレタキコト

二車馬置場

自動車　明治神宮外苑(但シ大勳位以下勳一等以上大正天皇ノ親族タル華族東淺川假驛陵所間鹵簿內奉送ヲ命セラレタル向ヲ除ク)

馬車人力車　慶應大學運動場

三自動車置場券

大勳位以下勳一等以上大正天皇ノ親族タル華族及東淺川假驛陵所間鹵簿內奉送ヲ命セラレタル諸員ニシテ自動車ヲ用フル向ハ其置場ヲ指定シタル置場券及通行上ニ必要ナル通行標ノ交付ヲ受クル爲二月五日午前九時ヨリ午後四時迄又ハ二月七日午前九時ヨリ正午迄ニ宮城坂下門外受付ニ參列資格ヲ記入シタル名刺持參出頭ノコト(但シ代人ヲ以テスルコトヲ得)

馬車人力車ニ就キテハ車馬券ヲ要セス

四退出ノ節ノ乘車ニ關スル心得

御儀式終了後乘車歸還セントスル向ハ心ス各自其置場ニ至ルコト自動車ヲ搜スニ當リテハ危險ヲ避クル爲自動車ノ後方ヨリスルコト(自動車後面見易キ個所ニ豫メ心覺エトナルヘキ標示ヲ爲シ置クコトハ發見上便宜多カルヘシ)自動車置場內駐車ノ位置ハ置場券交付ノ際圖面ヲ添付スヘキニ依リ豫メ承知シ置カレタキコト乘用車發見困難ナル時ハ掛員ニ尋ネラレタキコト

其八　其他

一參列員證

(イ)大勳位以下勳一等以上ニハ其ノ參列員證ヲ豫メ送付ス

地方在住者ニシテ當日在京ヲ豫期シ得ル向ハ至急大喪使儀式部宛届出ツルコト

(ロ)東淺川假驛陵所間鹵簿内奉送ヲ命セラレタル者ニ對シテハ其ノ參列員證ヲ豫メ送付ス

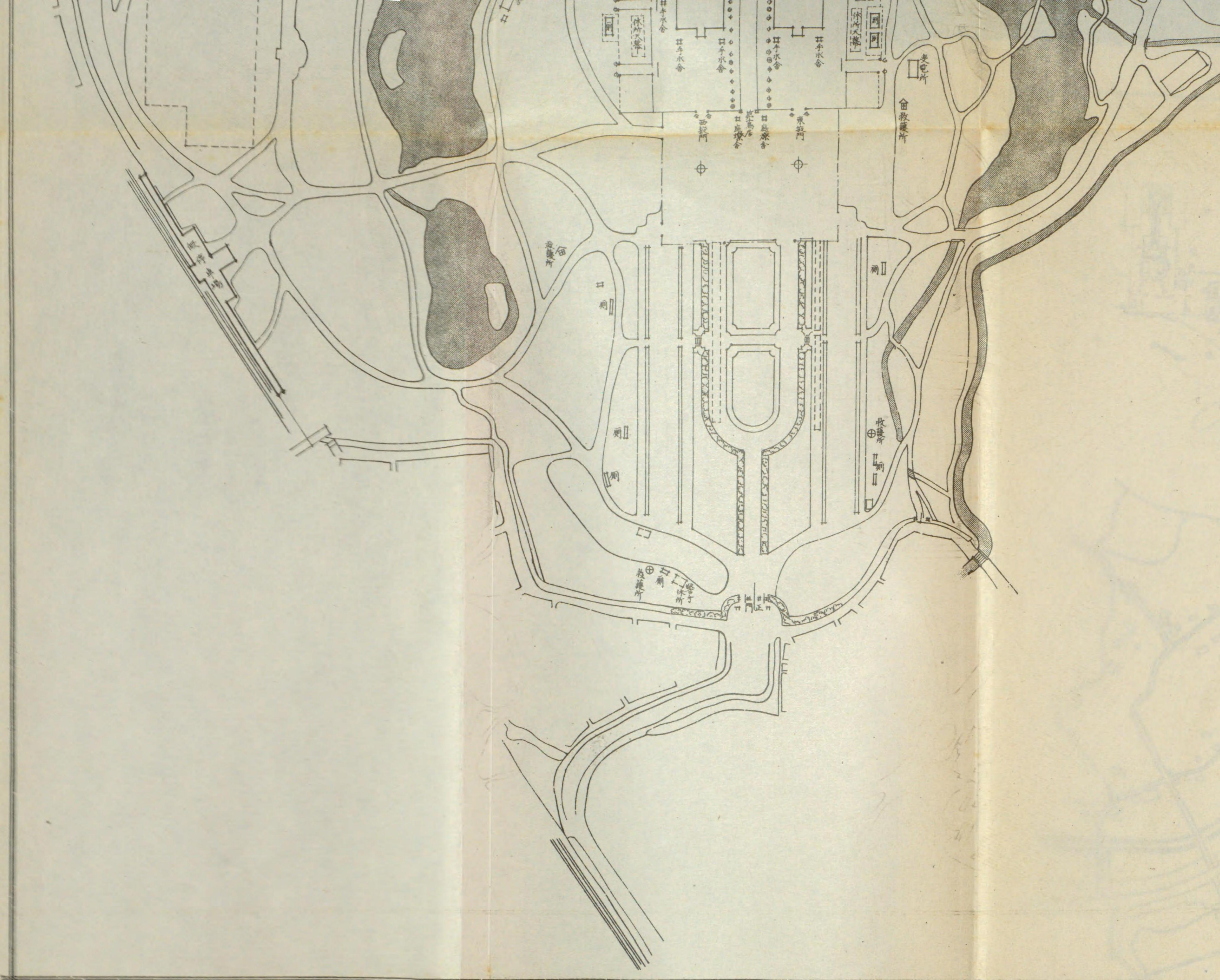
(ハ)前二項以外ノ者ニシテ燕尾服ニテ參列(第二參照)ノ向ハ參列員證ヲ有セサレハ諸門ヲ參入スルコトヲ得ス

參列員證ハ左記ノ方法ニ依リ交付ス

勳章又ハ褒章ヲ有スル廉ヲ以テ參列スル者(官位爵ヲ有セサル者)ハ二月五日午前九時ヨリ午後四時迄及同七日午前九時ヨリ正午迄ノ間宮城坂下門外受付ニテ參列資格ヲ記入セル名刺ヲ差出シ參列員證ヲ受クルコト

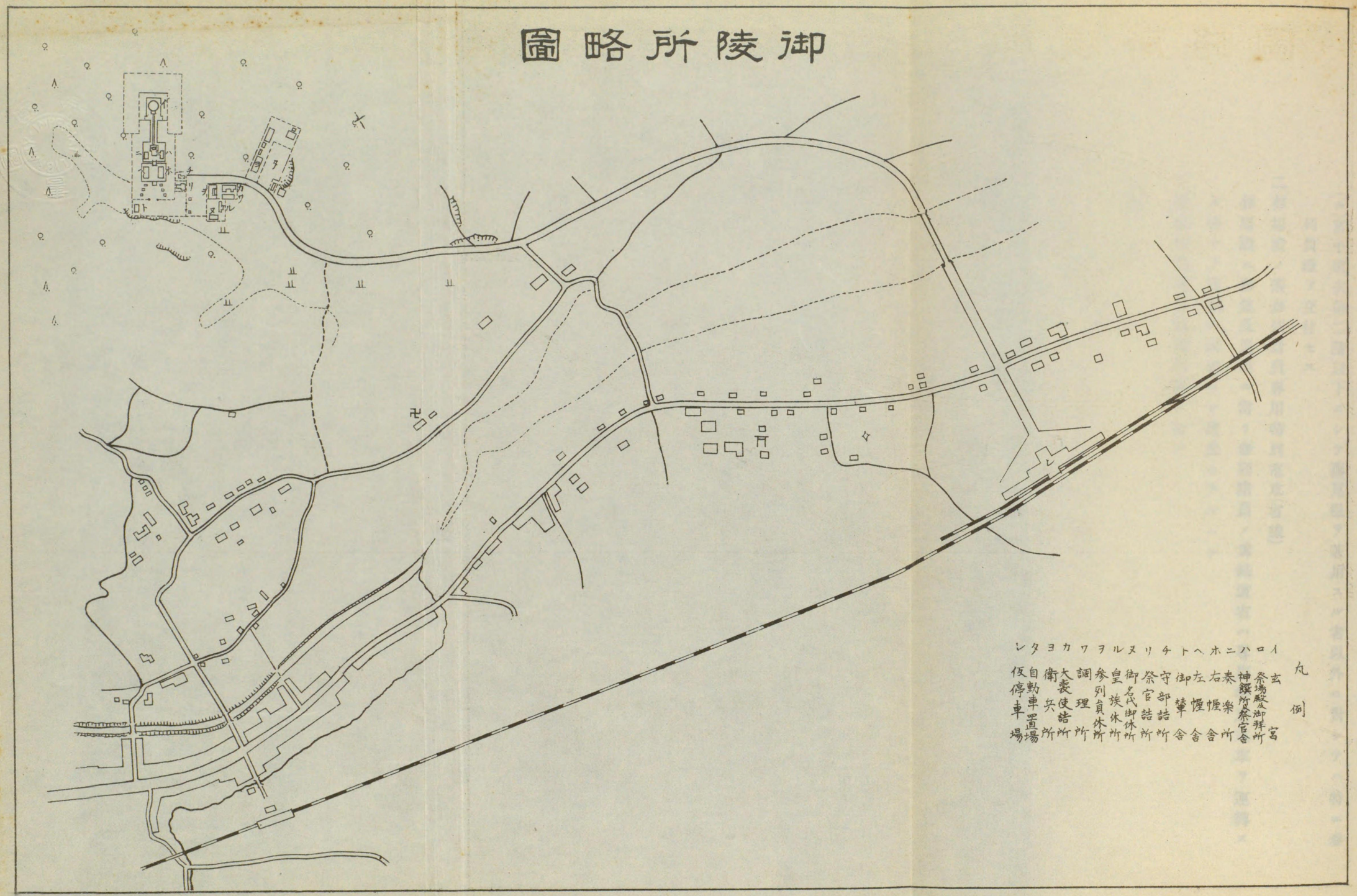
殿場葬
膳舎
祭官幄舎
樂舎
御幄舎
便殿
第二鳥居
左幄舎
右幄舎
第一休所
第二休所
第三休所
調理所
救護所
厠
手水舎
休所天幕
庭燎舎
第一鳥居

新宿御苑及式場配置圖



陳官嘴英女校舊址圖

御陵所略圖


凡例
イ 玄宮
ロ 祭場殿及御拜所
ハ 神饌所及祭官舍
ニ 奏樂所
ホ 右幄舍
ヘ 左幄舍
ト 御輦舍
チ 守部詰所
リ 祭官詰所
ヌ 御名代御休所
ル 皇族休所
ヲ 參列員休所
ワ 調理所
カ 大喪使詰所
ヨ 衛兵所
タ 自動車置場
レ 仮停車場

其ノ他ノ者ニハ關係官公衙ニテ參列員證ヲ交付ス

(ニ)各國領事ニ對シテハ其ノ參列員證ヲ豫メ交付ス

(ホ)宮中席次第二階以下ニシテ燕尾服ヲ著用スル者以外ニ對シテハ特ニ參列員證ヲ交付セス

二葬場殿ノ儀參列諸員專用特別電車(省線)

葬場殿ニ參集及退出ニ當リ參列諸員ノ爲鐵道省ハ專用特別電車ヲ運轉スル筈ナリ詳細ハ同省ヨリ發表セラルヘシ

三葬場殿並陵所略圖別紙ノ如シ

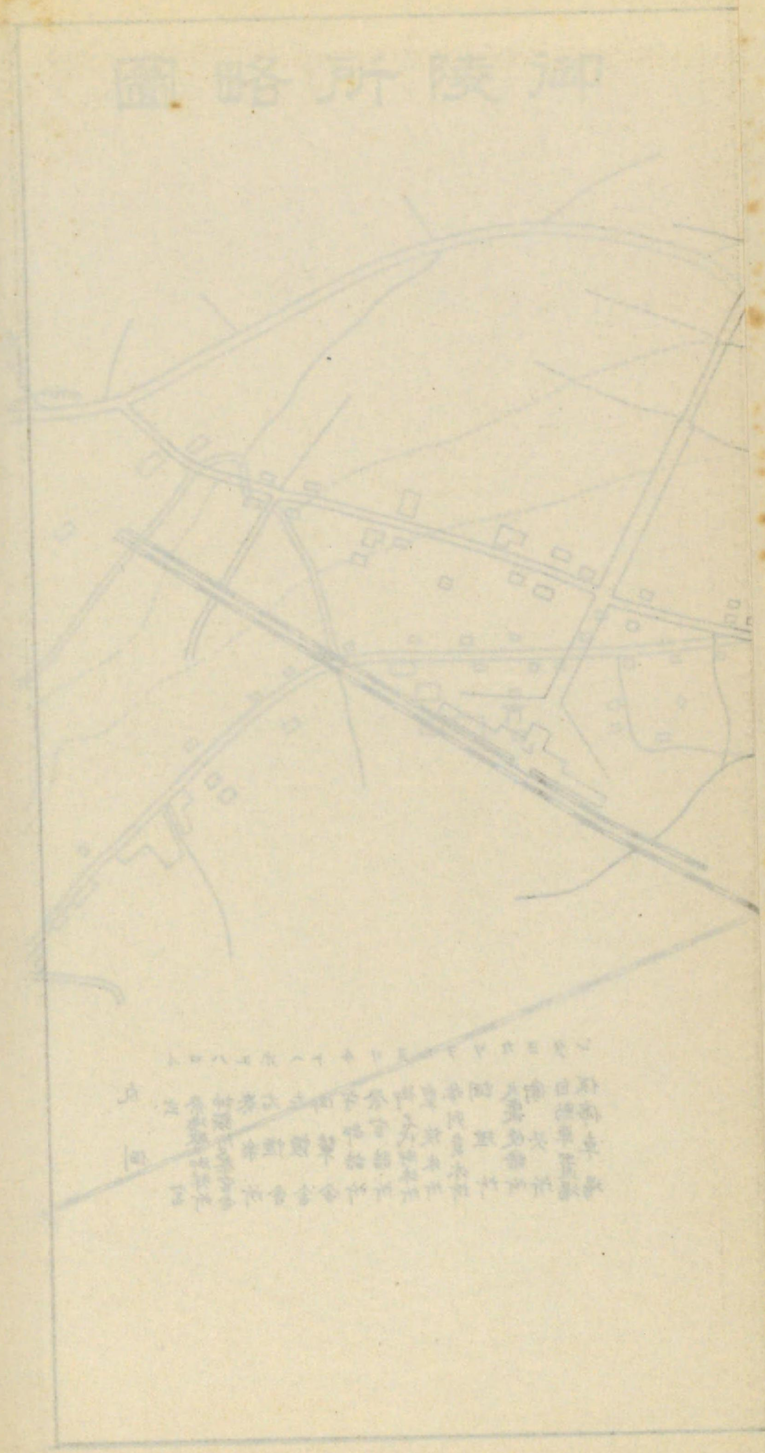
〔附　記〕

恩赦詔書

(二月七日官報號外)

二月七日大葬儀ニ際シ、聖上陛下ニハ左ノ恩赦ニ關スル詔書ヲ發布セシメラル。

詔　書



朕大故ニ遭遇シ傷悼已マス此ニ有辜ヲ矜ミ憲章ニ循ヒテ恩赦ヲ行ヒ以テ朕カ罔極ノ哀ヲ申ヘムトス百僚有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵　幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
逓信大臣　安達謙藏
逓信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵　井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

皇室令

朕宮内職員ノ懲戒免除ニ關スル件ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

宮内大臣　一木喜德郎

皇室令第三號

宮内職員ニシテ昭和元年十二月二十五日前ノ所爲ニ付懲戒ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテ

ハ懲戒ヲ行ハス。

懲戒ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルヽコトナシ。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

勅　令

朕大赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵　幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理　遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵　井上四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第十一號

大赦令

第一條　昭和元年十二月二十五日前左ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法第七十四條及第七十六條ノ罪

二　刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三　刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪

四　陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三十條ノ罪並其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪

五　陸軍刑法第三十五條乃至第三十九條ノ罪

六　陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪

七　陸軍刑法第七十三條乃第七十四條ノ罪

八　陸軍刑法第百三條ノ罪

九　海軍刑法第二十條、第二十一條及第二十五條ノ罪並其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪

十　海軍刑法第三十條乃至第三十四條ノ罪

十一　海軍刑法第五十五條乃至第五十七條ノ罪

十二　海軍刑法第七十一條及第七十二條ノ罪

十三　海軍刑法第百四條ノ罪

十四　治安警察法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

十五　新聞紙法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

十六　出版法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモノヲ除ク

十七　衆議院議員選擧法違反ノ罪及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ノ選擧ニ關シ同法ノ罰則又ハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法ノ罰則ヲ準用スル法令違反ノ罪

十八　前號ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪

十九　勞働爭議調停法第二十二條ノ罪

二十　明治三十三年法律第三十六號治安警察法第三十條ノ罪

二十一　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスルモノ

第二條前條ニ掲クル罪ニ該ル行爲ニシテ同時ニ他ノ罪名ニ觸ルヽトキ又ハ他ノ罪名ニ觸ルル行爲ノ手段若ハ結果タルトキハ赦免ヲ爲サス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕減刑令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵　幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵　井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第十二號

減刑令

第一條　昭和元年十二月二十五日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ遁ルヽ者ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ二十年ノ有期懲役トシ無期禁錮ハ之ヲ二十年ノ有期禁錮トス但シ昭和元年十二月二十五日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未滿ノ者ニ付テハ之ヲ十五年ノ懲役又ハ禁錮トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依リ刑期ヲ變更ス

一　刑ノ執行ヲ始メサル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ス

二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ス但シ刑ノ執行カ刑期ノ二分ノ一ニ至ラサル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル

三　昭和元年十二月二十五日ニ於テ七十歳以上ノ者及犯時十六歳未滿ノ者ニ付テハ前二號ノ例ニ依ラス刑期ノ三分ノ一ヲ減ス

短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ短期及長期ニ付前項ノ例ニ依ル但シ犯時十六歳以上ノ者ニシテ短期ヲ經過シタルモノニ付テハ長期ニ付前項第二號ノ例ニ依ル

前二項ノ計算ヲ爲スニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生スルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ掲クル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪

二　刑法第百八條ノ罪及其ノ未遂罪

三　刑法第百四十八條ノ罪及其ノ未遂罪

四　刑法第百八十一條ノ罪

五　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪

六　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル刑法第二百四條ノ罪

七　刑法第二百五條第二項ノ罪

八　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

九　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十　刑法第二百三十六條第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪(但シ前ニ强盜又ハ竊盜ノ行爲ニ因リ刑ニ處セラレタル者ニ限ル)

十一　刑法第二百四十條ノ罪及第二百四十一條ノ罪竝其ノ未遂罪

十二　前各號ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスル舊法ノ罪

十三　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十四　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ掲クル罪ト性質ヲ同シクスルモノ

第七條　併合罪ニ付併合シテ一個ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ併合罪中前條ニ掲クル罪アルトキハ減刑ヲ爲サス

前條ニ掲ケサル罪名ニ觸ルル行爲ニシテ同時ニ前條ニ掲クル罪名ニ觸ルルトキ又ハ前條ニ掲クル罪ノ手段若ハ結果タルトキ亦前項ニ同シ

第八條　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和元年十二月二十五日前十五年以内ニ恩赦ヲ得其ノ後七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セス

第九條　前數條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲ササル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕復權令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第十三號

復權令

第一條　罰金以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタ

ル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ昭和元年十二月二十五日ノ前日迄ニ十年以上ヲ經過シタルモノハ復權ス但シ大正五年十二月二十五日以後ニ再ヒ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス。

第二條　十八歳未滿ノ時罪ヲ犯シ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和元年十二月二十五日ノ前日迄ニ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タルモノハ其ノ刑ニ處セラレタル爲喪失シ又ハ停止セラレタル資格ニ付復權ス。

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第十四號

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ昭和元年十二月二十五日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ

懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス
未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス
陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ
懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ
停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其ノ停職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕出納官吏等ノ辨償責任ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム。

御名　御璽

昭和二年二月七日

内閣總理大臣　若槻禮次郎
陸軍大臣　宇垣一成
海軍大臣　財部彪
外務大臣　男爵　幣原喜重郎
文部大臣　岡田良平
内務大臣臨時代理
遞信大臣　安達謙藏
遞信大臣　安達謙藏
司法大臣　江木翼
大藏大臣　片岡直溫
鐵道大臣　子爵　井上匡四郎
農林大臣　町田忠治
商工大臣　藤澤幾之輔

勅令第十五號

出納官吏又ハ出納員ノ辨償責任ニ基ク債務ニシテ昭和元年十二月二十五日前ニ於ケル事由ニ因ルモノハ將來ニ向テ之ヲ免除ス但シ犯罪行爲ニ因ル本人ノ債務ハ此ノ限ニ在ラス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

軍令

朕陸軍ニ於ケル懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ制定シ之カ施行ヲ命ス。

御名　御璽

昭和二年二月七日

陸軍大臣　宇垣一成

軍令陸第二號

昭和元年十二月二十五日前ノ所爲ニ付陸軍懲罰令ニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ執行ヲ終リ若ハ免除セラレタル者其ノ執行中ノ者又ハ執行猶豫若ハ停止中ノ者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲罰ヲ行ハス。

懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ。

〔附記〕

一　慈惠救濟ノ御下賜金

大喪ニ付、惠恤ノ儀、左ノ通勅語アラセラレ、金百五拾萬圓道府縣、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島各地方ヘ下賜セラル、宮內大臣ハ內閣總理大臣ニ移シテ之ヲ執行セリ。(二月七日官報)

勅語

朕大喪ニ丁リ特ニ命シテ內帑ノ金ヲ出シ、各地方ニ頒賜シテ以テ慈惠救濟ノ資ニ充テシム。

二　恩賜財團慶福會ノ據出金ニ據ル食券配布

二月七、八兩日御大葬儀ニ付廢朝仰出サレタル場合、謹愼ノ意ヲ表スルタメ一般ニ事業休止ニ伴ヒ勞働者及其ノ家族ニシテ、生活困難ニ陷レルモノニ對シ、救

濟ノ趣旨ヲ以テ、恩賜財團慶福會ヨリ、東京府ヲ通シ本市ニ對シ、食券(九六四〇枚、コノ金額三八五六圓)ヲ交付セラレタルニ依リ、勞働紹介ノ取扱ヲナス市設職業紹介所七ケ所、方面委員、市設簡易宿泊所三ケ所、私設簡易宿泊所十五ケ所並月島救世軍職業紹介所ニ於テ、別表ノ通給與取扱ヲナス。

其ノ施行方法次ノ如シ。

一食券交付期間　自二月七日至二月八日

一同　時間　自午前八時至午後九時

一同　場所　(1)市設勞働職業紹介所七ケ所
(2)簡易宿泊所
(3)方面事務所

一同　方法　當日失業シタル日傭勞働者一人ニ對シ一日一枚限リノコト

一食券使用場所　食券一枚金四十錢ニシテ五錢券八枚續ノモノ

通牒例(其ノ一)　前記勞働紹介所並簡易宿泊所ニ於テ指定セル食堂

社發第三六九八號

大正十五年十二月二十五日　東京市助役　勝　正　憲

小石川區長殿

大喪ニ際シ生活困窮者救濟ニ關スル件

今般大喪ニ就キ廢朝期間中、謹愼ノ意ヲ表スル爲、事業ノ中止セラレタル結果失業シタル勞働者ニ對シテハ、恩賜財團法人慶福會ノ據出金ニ依リ救濟方本日付ヲ以テ、社會局長ヨリ東京府知事宛依命通牒有之、東京府ト協定ノ結果、市ニ十七日本市助役ヨリ社發第三六九八號ヲ以テ大喪ニ於テハ左記要項ニ依リ、食券ヲ交付救濟相成ルコトニ決定致候條、日傭勞働者ニシテ、廢朝期間中失業ニ依リ生活困窮セル者ニ對シ、右ノ趣旨御傳達方可然御配慮相煩度候。

記

一食券交付期間　自十二月二十六日至同三十日

一同　時間　毎日自午前九時至午後十時

一同　場所　芝園橋職業紹介所　芝區新堀町三〇